

# Novell iManager

2.0.x

管理ガイド

[www.novell.com](http://www.novell.com)

2004年1月9日



Novell®

## 法令通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本製品を米国またはカナダから輸出する際には、事前に米国商務省の輸出許可が必要となります。

米国の輸出規制または居住国の法律を含むあらゆる準拠法または規制に違反して本製品を輸出または再輸出することはできません。

Copyright © 2002-2003 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複製・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国特許番号 5,157,663; 5,349,642; 5,455,932; 5,553,139; 5,553,143; 5,572,528; 5,594,863; 5,608,903; 5,633,931; 5,652,854; 5,671,414; 5,677,851; 5,692,129; 5,701,459; 5,717,912; 5,758,069; 5,758,344; 5,781,724; 5,781,733; 5,784,560; 5,787,439; 5,818,936; 5,828,882; 5,832,274; 5,832,275; 5,832,483; 5,832,487; 5,859,978; 5,870,561; 5,870,739; 5,873,079; 5,878,415; 5,884,304; 5,893,118; 5,903,650; 5,903,720; 5,905,860; 5,910,803; 5,913,025; 5,913,209; 5,915,253; 5,925,108; 5,933,503; 5,933,826; 5,946,002; 5,946,467; 5,956,718; 5,956,745; 5,964,872; 5,974,474; 5,983,223; 5,983,234; 5,987,471; 5,991,810; 6,002,398; 6,014,667; 6,016,499; 6,023,586; 6,029,247; 6,052,724; 6,061,726; 6,061,740; 6,061,743; 6,065,017; 6,081,774; 6,081,814; 6,094,672; 6,098,090; 6,105,062; 6,105,069; 6,105,132; 6,115,039; 6,119,122; 6,144,959; 6,151,688; 6,157,925; 6,167,393; 6,173,289; 6,216,123; 6,219,652; 6,233,859; 6,247,149; 6,269,391; 6,286,010; 6,308,181; 6,314,520; 6,324,670; 6,338,112; 6,345,266; 6,353,898; 6,424,976; 6,466,944; 6,477,583; 6,477,648; 6,484,186; 6,496,865; 6,510,450; 6,516,325; 6,519,610; 6,532,451; 6,532,491; 6,539,381; RE37,178. 特許出願中。

Novell, Inc.  
1800 South Novell Place  
Provo, UT 84606  
U.S.A.

[www.novell.com](http://www.novell.com)

Novell iManager 2.0.x 管理ガイド  
2004年1月9日

**オンラインドキュメント**：この製品およびその他の Novell 製品に関するオンラインマニュアルにアクセスしたり、アップデートを手するには、<http://www.novell.com/documentation> を参照してください。

## **Novell の商標**

ConsoleOne は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

DirXML は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

exteNd は、米国 Novell, Inc. の商標です。

exteNd Director は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Directory Services および NDS は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Nterprise は、米国 Novell, Inc. の商標です。

## **サードパーティの商標**

サードパーティ各社とその製品の商標は、所有者であるそれぞれの会社に所属します。



# 目次

	このガイドについて	9
<b>1</b>	<b>概要</b>	<b>11</b>
	2.0.x の新機能	11
	追加情報の取得先	11
	次の手順	12
<b>2</b>	<b>iManager のインストール</b>	<b>13</b>
	インストール条件	13
	新しいバージョンの iManager のインストール	14
	iManager の NetWare 6.5 へのインストール	14
	iManager の NetWare 6 へのインストール	15
	iManager の Windows 2000/XP/2003 へのインストール	17
	iManager の Linux へのインストール	18
	iManager の Solaris へのインストール	20
	iManager の HP-UX へのインストール	21
	iManager の既存バージョンのアップグレード	24
	iManager 1.5x からアップグレードする場合の注意事項	24
	Windows での iManager のアップグレード	24
	Linux での iManager のアップグレード	25
	HP-UX での iManager のアップグレード	25
	iManager のアンインストール	25
	NetWare 6.0 での iManager のアンインストール	26
	Windows での iManager のアンインストール	26
	Linux での iManager のアンインストール	27
	Solaris での iManager のアンインストール	27
	HP-UX での iManager のアンインストール	27
<b>3</b>	<b>iManage へのアクセス</b>	<b>29</b>
	サポートされている Web ブラウザの使用	29
	iManager へのログイン	29
	スクリーンリーダーなどのユーザ補助機能を使用して iManager にアクセスする	30
	別のツリーへのログイン	30
	次の手順	30
<b>4</b>	<b>iManager インタフェース内での移動</b>	<b>31</b>
	iManager のインタフェース	31
	コンテンツパネル	32
	オブジェクトセレクタの使用	32
	アクセスモード	32
	特殊文字	33
<b>5</b>	<b>役割ベースサービスの設定</b>	<b>35</b>
	概要	35
	デフォルトの役割とタスク	35
	eDirectory 内の RBS オブジェクト	37

RBS のインストール	38
権利	39
RBS 役割の定義	40
役割オブジェクトの作成	40
役割に関連付けられているタスクの変更	41
RBS 役割のメンバーシップとスコープの割り当て	41
役割ベースサービスオブジェクトの削除	41
カスタムの RBS タスクの定義	42
<b>6 iManager プラグインのインストールと使用</b>	<b>43</b>
プラグインのダウンロードとインストール	43
RBS を設定していない場合のプラグインのインストール	43
RBS を設定している場合のプラグインのインストール	44
<b>7 iManager の設定とカスタマイズ</b>	<b>47</b>
コンテキストレスログインの設定	47
ポータルコンテナの追加	47
他の属性の追加	48
ユーザオブジェクトクラスの変更	48
コンテキストログインの有効化または無効化	48
eDirectory への SSL/TLS 接続のための iManager の設定	49
ルート証明書のエクスポート	49
eDirectory 証明書のキーストアへのインポート	50
使用できるボタンのカスタマイズ	50
exteNd Director 設定ウィザードの手動による実行	51
ウィザードの実行の準備	51
ウィザードの実行	52
負荷分散とフェールオーバーの設定	53
負荷分散の設定	53
フェールオーバーの設定	53
サーバチェック間隔の設定	54
負荷分散またはフェールオーバーの設定の更新	54
オブジェクトの作成タスクにオブジェクトのクラスを追加する	54
<b>8 トラブルシューティング</b>	<b>57</b>
空白のページ	57
インストールと設定のためのデバッグ設定	58
ダイナミックグループの LDAP エラー	58
eDirectory 管理タスクエラー	59
HTTP 404 エラー	59
HTTP 500 エラー	59
Tomcat の状態のチェック	59
Apache の状態のチェック	60
属性、オブジェクト、または値がないというエラー	60
NPS のコンテキストを認識できないというエラー	60
「次のサブレットの起動中に問題が発生しました」エラー	60
「ユニバーサルパスワードステータスを判別できません」エラー	61
<b>A PortalServlet.properties ファイルの設定</b>	<b>63</b>
デフォルトツリーの設定	63
System.AllowiManagerDefaultLogin	63
LDAP サーバの設定	63
System.DirectoryAddress	63
System.DirectorySSL	64
System.Directory#Address	64
System.Directory#SSL	64

System.FailoverOnly . . . . .	64
ポータル設定オブジェクトの設定 . . . . .	65
System.PortalConfigurationObjectDN . . . . .	65
System.GUID . . . . .	65
System.Password . . . . .	65
Custom_Backend_Renderer_Portal_Location . . . . .	65
セッションマネージャの設定 . . . . .	65
System.SessionManager.Render	
System.SessionManager.RenderOverride . . . . .	65
DontCacheStylesheets のレンダリングの設定 . . . . .	66
System.Render.DontCacheStylesheets . . . . .	66
ログの設定 . . . . .	66
ログを有効にする . . . . .	66
ログの優先順位 . . . . .	66
ログ出力 . . . . .	66
ログ出力ファイル . . . . .	67
SSL の設定 . . . . .	67
保護されていない接続に関する警告 . . . . .	67
eDirectory との保護された通信が必要 . . . . .	67
RBS ( 役割ベースサービス ) . . . . .	68
すべての役割をコレクション所有者に表示する . . . . .	68
自己プロビジョニングを許可する . . . . .	68
RBS 検出ドメイン . . . . .	68
ダイナミックグループの役割メンバーを許可する . . . . .	69
ダイナミックグループ RBS 検出ドメイン . . . . .	69
ダイナミックグループの検索タイプ . . . . .	69
System.UserClass . . . . .	70
eGuide の管理 . . . . .	70
eGuide サーバの場所 . . . . .	70
PortalServlet.properties ファイルの例 . . . . .	70





# このガイドについて

このガイドでは、Novell® iManager 2.0.x の設定および使用方法について説明します。このガイドはネットワーク管理者を対象としており、次のセクションから構成されています。

- ◆ 1 章 11 ページの、「概要」
- ◆ 2 章 13 ページの、「iManager のインストール」
- ◆ 3 章 29 ページの、「iManage へのアクセス」
- ◆ 4 章 31 ページの、「iManager インタフェース内での移動」
- ◆ 5 章 35 ページの、「役割ベースサービスの設定」
- ◆ 6 章 43 ページの、「iManager プラグインのインストールと使用」
- ◆ 7 章 47 ページの、「iManager の設定とカスタマイズ」
- ◆ 8 章 57 ページの、「トラブルシューティング」
- ◆ 63 ページの付録 A、「PortalServlet.properties ファイルの設定」

## その他のマニュアル

すべての Novell ソフトウェア製品のマニュアルは、[www.novell.com/documentation](http://www.novell.com/documentation) (<http://www.novell.com/documentation>) で入手できます。

NetWare® のインストールと使用に関するマニュアルについては、[Novell NetWare マニュアルの Web サイト](http://www.novell.com/documentation/NetWare.html) (<http://www.novell.com/documentation/NetWare.html>) を参照してください。

eDirectory™ のインストールと使用に関するマニュアルについては、[Novell eDirectory マニュアルの Web サイト](http://www.novell.com/documentation/eDirectory.html) (<http://www.novell.com/documentation/eDirectory.html>) を参照してください。

その他のマニュアルについては、11 ページの「追加情報の取得先」を参照してください。

## マニュアルの更新

『iManager 2.0.x 管理ガイド』と readme ファイルの最新バージョンについては、[Novell iManager マニュアルの Web サイト](http://www.novell.com/documentation/japanese/imanager20) (<http://www.novell.com/documentation/japanese/imanager20>) を参照してください。

このリリースの iManager のその他の問題に関する情報については、[Novell Knowledge Base](http://support.novell.com) (<http://support.novell.com>) の Solution #10089040、「Novell iManager 2.0.x Readme Addendum」を参照してください。

## マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、不等号 (>) を使用して、操作手順の動作、およびクロスリファレンスパス内の項目を区切ります。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) はサードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (¥) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。UNIX\* などのようにスラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

# 1

## 概要

Novell® iManager は Web ベースの管理コンソールです。iManager を使用すると、インターネットと Web ブラウザにアクセスできる場所であればどこからでも、カスタマイズされた方法でネットワーク管理ユーティリティとコンテンツに安全にアクセスできます。

iManager には、次の機能が含まれています。

- ◆ 前身である ConsoleOne® のすべての機能
- ◆ Novell eDirectory® のオブジェクト、スキーマ、パーティション、およびレプリカの一元管理
- ◆ 他の多くのネットワークリソースの一元管理
- ◆ Web ブラウザおよび各種のハンドヘルドデバイスによる、他の多くの Novell 製品の管理
- ◆ 委任管理のための RBS ( 役割ベースサービス )

iManager は、Novell exteNd Director™ Standard Edition ソフトウェアをベースとしています。iManager のユーザインタフェースはこのソフトウェアが提供するポータルを介して表示されます。iManager の機能は、プラグインと呼ばれるソフトウェアコンポーネントによって拡張できます。iManager には多くのプラグインが提供されており、サードパーティから入手できるものもあります。

## 2.0.x の新機能

iManager 2.0.x には、次のような新機能とアップグレードされた機能が含まれています。

- ◆ NetWare、Linux\*、Windows\*、Solaris\*、HP-UX\* のサポート
- ◆ カスタムタスク作成用の新しい Plug-in Studio
- ◆ Netscape\* 7.1 や Mozilla 1.4 などのブラウザに対するサポートの拡張
- ◆ iManager 1.x から 2.x にカスタムタスクを移動するための iManager 移行キット
- ◆ 高速、高パフォーマンス

## 追加情報の取得先

Novell iManager 2.0.x の関連情報については、次の各 Web サイトを参照してください。

- ◆ Apache HTTP サーバ (<http://httpd.apache.org>)
- ◆ Tomcat サーブレットコンテナ (<http://jakarta.apache.org/tomcat>)
- ◆ Java\* Web サイト (<http://java.sun.com>)
- ◆ Microsoft\* Windows Web サービス (<http://www.microsoft.com/technet/treeview/default.asp?url=/technet/prodtechnol/iis/default.asp>)

- ◆ Novell eDirectory 製品ホームページ (<http://www.novell.com/products/edirectory>)
- ◆ Novell eDirectory製品マニュアル (<http://www.novell.com/documentation/eDirectory.html>)
- ◆ Novell eDirectory Cool Solutions コミュニティ (<http://www.novell.com/cool solutions/nds>)

## 次の手順

- ◆ iManager をインストールするには、2 章 13 ページの、「iManager のインストール」を参照してください。
- ◆ iManager のプログラムを起動するには、3 章 29 ページの、「iManage へのアクセス」を参照してください。
- ◆ iManager を設定するには、7 章 47 ページの、「iManager の設定とカスタマイズ」を参照してください。

# 2

## iManager のインストール

このセクションでは、次の項目について説明します。

- ◆ 13 ページの「インストール条件」
- ◆ 14 ページの「新しいバージョンの iManager のインストール」
- ◆ 24 ページの「iManager の既存バージョンのアップグレード」
- ◆ 25 ページの「iManager のアンインストール」

### インストール条件

次のインストール条件は、すべてのプラットフォームに該当します。プラットフォーム別の追加インストール条件については、次のセクションで説明します。

- **サポートされるブラウザ** : iManager を実行するには、ワークステーションに Internet Explorer 6 SP1 以降 (推奨)、Netscape 7.1 以降、または Mozilla 1.4 以降がインストールされている必要があります。
- **eDirectory LDAP サーバ** : Novell® eDirectory™ LDAP サーバをセキュリティ保護された設定にする必要があります。eDirectory と iManager が別のコンピュータ上にある場合は、通常インストール時に行われる iManager ポータルの設定により、ツリー内のサーバに LDAP バインドを行うためのアカウント情報が要求されます。サーバには、eDirectory 8.6.2 以降をインストールしておく必要があります。
- **管理者と同等の権利** : iManager を eDirectory ツリーに初めてインストールする場合、管理者と同等の権利がないと iManager 設定ウィザードを実行できません。以後のインストールでは、コンテナ管理者の権利が必要です。
- **サーバのメモリ** : iManager をインストールするサーバには、512MB 以上の RAM が必要です。1024MB を推奨します。
- **ポートの設定** : ポートの競合を避けるために、iManager をインストールするサーバで使用されているポートと、iManager で使用するポートが競合しないことを確認してください。iManager とともにインストールされるバージョンの Apache および Tomcat は、ポート 80、443、8009、8080、および 8005 を使用します。これらのポートを eDirectory など別のサービスで使用している場合は、問題が発生する可能性があります。詳細については、プラットフォーム別のインストールに関する説明を参照してください。

# 新しいバージョンの iManager のインストール

Novell iManager 2.0.2 は、このセクションに記載されているプラットフォームにインストールできます。iManager をインストールする前に、使用しているプラットフォーム用の最新のサービスパックを適用し、前のセクションに記載されているインストール条件を満たしておく必要があります。このセクションでは、次のプラットフォームに iManager をインストールする方法について説明します。

- ◆ (14 ページ) iManager の NetWare 6.5 へのインストール
- ◆ (15 ページ) iManager の NetWare 6 へのインストール
- ◆ (17 ページ) iManager の Windows 2000/XP/2003 へのインストール
- ◆ (18 ページ) iManager の Linux へのインストール
- ◆ (20 ページ) iManager の Solaris へのインストール
- ◆ (21 ページ) iManager の HP-UX へのインストール

**重要:** このガイドの説明は、iManager を Novell Nenterprise™ Linux Services とともにインストールする場合には適用されません。『Novell Nenterprise Linux Services Installation Guide (<http://www.novell.com/documentation/japanese/npls/install/data/front.html>)』に記載されたインストール条件およびインストールの説明に従ってください。

## iManager の NetWare 6.5 へのインストール

iManager 2.0.x は、NetWare® 6.5 の製品 CD またはスタンドアロンのインストールファイルからインストールできます。

### インストール条件

NetWare 6.5 に iManager をインストールする場合は、13 ページの「インストール条件」に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件が適用されます。

- NetWare 6.5 サーバ(iManager 2.0.2はSupport Pack 1以降でのみサポートされています)
- iManagerと同じサーバ上にインストールする場合はeDirectory 8.7.1以降、別のサーバ上にインストールする場合は eDirectory 8.6.2
- Sun\* JVM 1.4.1 以降がインストールされていること

### 手順

iManager 2.0.x は、NetWare 6.5 のインストールプログラムによってインストールされます。詳細については、『*NetWare 6.5 Overview and Installation Guide* (<http://www.novell.com/documentation/japanese/nw65/index.html?page=/documentation/japanese/nw65/install/data/hz8pck9v.html>)』を参照してください。NetWare 6.5 のみをすでにインストールしている場合は、NetWare 6.5 の製品 CD を使用して iManager を別途インストールできます。

**注:** iManager 2.0.2 をインストールするには、NetWare 6.5 SP1 の CD が必要です。

NetWare 6.5 の製品 CD を使用して iManager をインストールするには、次の手順に従います。

- 1 LDAP SSL が動作していることを確認します。NetWare のコンソールで TCPCON を実行します。[Protocol Information ( プロトコル情報 )] > [TCP] > [TCP Connections (TCP 接続)] の順に選択します。開いているポートのリストにポート 636 が表示されていることを確認します。

- 2 PKIDIAG (PKI 診断ユーティリティ) を実行します。詳細については、[技術情報ドキュメント #2963420 \(http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/2963420.htm\)](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/2963420.htm) を参照してください。
- 3 NetWare 6.5 製品 CD セットの *Products CD* (ディスク 2) を挿入します。
- 4 NetWare 6.5 の GUI 画面で、[Novell] ボタンをクリックした後、[インストール] > [追加] の順に選択します。
- 5 *Products CD* 上の *postinst.ni* ファイルがある場所に移動します。
- 6 iManager 2.0.x を選択します。
- 7 画面上の指示に従います。

## iManager の NetWare 6 へのインストール

### インストール条件

NetWare 6.0 に iManager をインストールする場合は、13 ページの「インストール条件」に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件が適用されます。

- Support Pack 3 以降がインストールされた NetWare 6 サーバ  
注：NetWare 5.1 はサポートされていません。
- iManager と同じサーバ上にある場合は eDirectory 8.7.1 以降、別のサーバ上にある場合は eDirectory 8.6.2
- Sun JVM 1.4.1 以降がインストールされていること
- Tomcat 3.3
- Tomcat 4 (NetWare 6.0 用の iManager 2.0.x インストールプログラムに含まれています)
- Web サービス  
Apache 1.3 HTTP サーバ (NetWare 6 とともにインストールされます)  
注：Apache 2.0 はサポートされていません。
- ローカルインストール用として 200MB の空きディスク領域

### 手順

- 1 Tomcat 3.3 がポート 8080 をリスンしているか調べます (Tomcat 3.3 において、デフォルトではこの設定は無効ですが、デバッグのために有効にされている可能性もあります)。ポートが有効に設定されている場合は、`sys:\tomcat\33\nwserver.xml` で `Http10Interceptor` タグをコメントアウトしてポートを無効にし、NetWare のコマンドプロンプトで「**tomcat stop**」、次に「**tomcat33**」と入力して、Tomcat 3.3 を再起動します。
- 2 LDAP SSL が動作していることを確認します。NetWare のコンソールで TCPCON を実行します。[Protocol Information (プロトコル情報)] > [TCP] > [TCP Connections (TCP 接続)] の順に選択します。開いているポートのリストにポート 636 が表示されていることを確認します。
- 3 PKIDIAG (PKI 診断ユーティリティ) を実行します。詳細については、[技術情報ドキュメント #2963420 \(http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/2963420.htm\)](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/2963420.htm) を参照してください。

- 4 ボリューム上に十分なディスク領域があることを確認します。約 200MB の空きディスク領域が必要です。
- 5 Tomcat 3.3 がインストールされていることを確認します。インストールされている場合は、サーバに `sys:\tomcat\33\` というフォルダがあり、NetWare のコマンドラインで「`JAVA-SHOW`」と入力すると Java プロセスのリストに「`org.apache.tomcat.startup.Main`」と表示されます。
- 6 Apache がリッスンしているポートを調べます。`sys:\Apache\conf\adminserv.conf` ファイルを開いて、次の行を探します。  

```
# Start Apache Services Port Configuration
```

HTTP と HTTPS の両方のポートをメモします (Listen および SecureListen ディレクティブ)。
- 7 Novell 製品ダウンロード (<http://download.novell.com>) から `iMan_20x_NW60.exe` ファイルをダウンロードします。
- 8 `iMan_20x_NW60.exe` ファイルを実行して、NetWare 6 サーバの `sys:` ボリュームに展開します。
- 9 NetWare 6 の GUI 画面で、[Novell] ボタンをクリックした後、[インストール] > [追加] の順に選択します。
- 10 `iManager 2.0.x` の `product.ni` ファイルを選択して、インストールプログラムを完了させます (`product.ini` ファイルは `sys:` ボリュームのルートにコピーされています)。
- 11 `sys:\tomcat\4\webapps\nps\WEB-INF\PortalServlet.properties` ファイルを修正します。「`Custom_Backend_Renderer_Portal_Location=http://127.0.0.1/nps`」という行を探します。「127.0.0.1」を、iManager が動作している Web サーバの実際の IP アドレスと保護されていない HTTP ポート (ステップ 6 参照) に置き換えます。  

バックエンドレンダラの場合に問題があると、iManager へのアクセス時に空白の画面が表示される場合があります。この場合、解決策として、次のように URL 内で XML のレンダリングをオフにする方法があります。

```
https://IP:SecureListen port/nps/servlet/portal?render=off
```

バックエンドレンダラで空白の画面が表示される問題の詳細については、[技術情報ドキュメント #10070553](http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10070553.htm) (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10070553.htm>) を参照してください。
- 12 `server.xml` でコネクタのリダイレクトポートを修正します。
  - 12a `sys:\tomcat\4\conf\server.xml` ファイルを開きます。
  - 12b HTTP/1.1 コネクタを定義している `Connector` 要素を探します。通常、ポートは 8080 に設定されています。`redirectPort` 属性をデフォルトの 8443 からステップ 6 で調べたポート番号に変更します。
  - 12c AJP 1.3 コネクタを定義する `Connector` 要素を探します。通常、ポートは 9009 に設定されています。`redirectPort` 属性をデフォルトの 8443 からステップ 6 で調べたポート番号に変更します。
  - 12d `server.xml` に対する変更を保存して、ファイルを閉じます。
- 13 Tomcat 4 を再起動します。NetWare のコンソールで「`TC4STOP`」と入力して、Tomcat が停止するまで待ちます (Tomcat 4 が停止すると、ログ記録画面に、`java: クラス org.apache.catalina.startup.Bootstrap が正常に終了したことを知らせるメッセージが表示されます`)。「`TOMCAT4`」と入力して、Tomcat を再起動します。
- 14 Web ブラウザを開いて、ステップ 6 で調べたポートで iManager に接続します。例：  

```
https://IP:SecureListen port/nps/iManager.html
```



# iManager の Windows 2000/XP/2003 へのインストール

## インストール条件

Windows に iManager をインストールする場合は、13 ページの「インストール条件」に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件が適用されます。

- 最新のサービスパックがインストールされた Windows\* 2000 Server、2000 Advanced Server、2000 Professional、XP Professional、または 2003 Server
- Pentium\* III 800MHz 以上のプロセッサ
- ローカルインストール用として 200MB の空きディスク領域
- 512MB の RAM (1024MB を推奨)
- Windows サーバまたは他の使用可能なサーバに eDirectory 8.6.2 以降がインストールされていること
- Web サービス

Windows サーバでは、Apache と Tomcat、または Windows Web Services (IIS) と Tomcat を使用できます。インストール済みの Web サービスは、iManager インストールプログラムによって検出されます。Windows サーバで IIS を使用している場合に Apache と Tomcat を使用するには、まず IIS を削除し、その後 iManager インストールプログラムを使用して Apache と Tomcat をインストールする必要があります。iManager インストールプログラムでは、IIS は SSL を使用するように設定されません。

**重要** : iManager 2.0.2 は、Windows 2003 Server 上で IIS 6 をサポートしていません。Apache 2 は、Windows 2003 Server 上でサポートされています。

互換性のあるバージョンが検出されなかった場合、iManager 2.0.1 インストールプログラムでは、次の項目がインストールおよび設定されます。

- ◆ Apache 2.0.47 (Apache と IIS が検出されなかった場合にインストールされます)
- ◆ Tomcat 4.1.27
- ◆ Sun JVM\* 1.4.2\_01
- ◆ NCI (Novell International Cryptographic Infrastructure) 2.6.0

互換性のあるバージョンが検出されなかった場合、iManager 2.0.2 インストールプログラムは、次をインストールして、設定します。

- ◆ Apache 2.0.48 (Apache と IIS が検出されなかった場合にインストールされます)
- ◆ Tomcat 4.1.27
- ◆ Sun JVM 1.4.2\_02
- ◆ NCI 2.6.0

iManager を eDirectory と同じコンピュータ上にインストールする場合、iManager の設定に使用しているサーバの LDAP グループオブジェクト上で [パスワードとの単純バインドに TLS を必要とする] をオンにする必要があります。このチェックボックスをオフにしておくと、iManager はセキュリティ保護されないモードでインストールされ、保護されたモードを必要とするプラグインを使用できなくなります。

## 手順

- 1 Novell 製品ダウンロード (<http://download.novell.com>) から iMan\_20x\_win.exe ファイルをダウンロードします。
- 2 iMan\_20x\_win.exe ファイルを実行して、一時ディレクトリに展開します。
- 3 iManagerInstall.exe を実行します。
- 4 画面上の指示に従います。
- 5 インストールが終了すると、Web サーバが再起動します。iManager を使用するには、Web サーバが初期化されるまで数秒待つ必要があります。

ヒント：インストールプログラムを起動した直後に <Ctrl> キーを押すと、インストールプログラムのデバッグ出力を表示できます。コンソールウィンドウが表示されるまで、<Ctrl> キーを押し続けてください。

## iManager の Linux へのインストール

**重要：**このガイドの説明は、iManager を Novell Nterprise™ Linux Services とともにインストールする場合には適用されません。『[Novell Nterprise Linux Services Installation Guide \(http://www.novell.com/documentation/japanese/npls/install/data/front.html\)](http://www.novell.com/documentation/japanese/npls/install/data/front.html)』に記載されたインストール条件およびインストールの説明に従ってください。

### インストール条件

Linux に iManager をインストールする場合は、[13 ページの「インストール条件」](#)に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件が適用されます。

- SuSE\* Linux Enterprise Server 8.x (SLES 8 for x86)、Red Hat\* Linux 8、Red Hat Linux 9、または Red Hat Advanced Server 2.1
- Sun JVM 1.4.1 以降がインストールされていること
- Pentium III 800MHz 以上のプロセッサ
- 360MB のディスク領域
- Web サーバへのルート権
- eDirectory の設定

eDirectory がインストール済みのサーバに iManager をインストールする場合、eDirectory と iManager の両方で共有されているパッケージとの競合を避けるために、eDirectory のバージョンを、iManager 2.0.1 の場合は 8.7.1 以降、iManager 2.0.2 の場合は 8.7.3 以降にする必要があります。

eDirectory がインストールされていないサーバに iManager をインストールする場合は、他の使用可能なサーバに eDirectory 8.6.2 以降がインストールされている必要があります。

- ポートの設定

ポートは競合する可能性があります。Apache、Tomcat、および JVM は、iManager インストールプログラムでインストールされます。iManager インストールプログラムは、インストール中にポート 80 とポート 443 の使用状況を確認します (たとえば、eDirectory は、デフォルトで HTTP スタックとしてポート 80 を使用します)。これらのポートが使用されていると、インストール中に Apache の実行用に別のポートを入力するよう要求するプロンプトが表示されます。Tomcat のポートは検出されません。Tomcat では、ポート 8080、8005、および 8009 を使用します。別のバージョンの Tomcat が動作している場合、その Tomcat は検出されず、ポートの競合が発生する可能性があります。

- 最新バージョンの `gettext` がサーバ上にあることを確認します。`gettext` があるかどうかを調べるには、シェルで次のコマンドを実行します。

**gettext -V**

`gettext` が存在する場合、バージョン番号が表示されます。

`gettext` がない場合は、iManager をインストールする前に、Linux 配布ベンダから `gettext` を入手してインストールしておく必要があります。

**重要:** Linux 上では、iManager とともにインストールされるバージョンの Apache および Tomcat を使用しないと iManager は動作しません。

## 手順

- 1 `iMan_20x_linux.tgz` ファイルをサーバ上のディレクトリに展開します。次のコマンドを実行します。

**tar -zxvf iMan\_202\_linux.tgz**

- 2 シェルを開いて、`install_directory/iManager_linux` ディレクトリに移動します。

このパスは、iManager のファイルをコピーまたは解凍したディレクトリに対する相対パスです。

- 3 次のコマンドを入力します。

**./install.sh**

- 4 画面上の指示に従います。プロンプトでかっこに囲まれているテキストは、デフォルトの選択肢です。デフォルトをそのまま使用する場合は、<Enter> を押します。

- 5 プロンプトに従って iManager サーバのアドレスまたは DNS ホスト名を入力すると、IP アドレスが自動検出されます。

- 6 管理者名には、ドット表記 (「cn=admin.o=novell」など) を使用する必要があります。

- 7 (状況に応じて実行) iManager 2.0.1 をインストールしている場合は、PCO (Portal Configuration Object) パスワードを設定します。

**7a** PCO がすでにある eDirectory ツリーでは、既存のパスワードを使用する必要があります。パスワードは、`TOMCAT_HOME\webapps\nps\WEB-INF` ディレクトリの `PortalServlet.properties` ファイルにあります。「`System.Password=[password]`」というフィールドを探します。

**7b** 新しいパスワードを設定する場合、管理者のパスワードを使用しないでください。デフォルトのパスワードは「novell」です。このパスワードは変更することをお勧めします。

- 8 LDAP サーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名は、デフォルトではローカルコンピュータになります。iManager をインストールする eDirectory ツリー内にある eDirectory LDAP サーバの IP アドレスを必ず使用してください。

- 9 サポートされているブラウザを起動して、次の URL に移動します。

`https://server_ip_address:port_number/nps/iManager.html`

**重要:** この URL 名では、大文字と小文字が区別されます。サーバの IP アドレスとして、DNS 名を使用することもできます。

# iManager の Solaris へのインストール

## インストール条件

Solaris に iManager をインストールする場合は、13 ページの「インストール条件」に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件が適用されます。

- ❑ SunSolve Web サイト (<http://sunsolve.sun.com>) からダウンロードした最新のパッチがインストールされた Sun Solaris\* 8 または 9 (SPARC\* プロセッサのみ)

**重要:** Solaris 8 を使用している場合は、パッチ 112438.02 がインストール済みで、OS のバージョンの日付が 2001 年 10 月以降である必要があります。

- ❑ Sun JVM 1.4.1 以降がインストールされていること
- ❑ Web サーバへのルート権
- ❑ eDirectory の設定

eDirectory がインストール済みのサーバに iManager をインストールする場合、eDirectory と iManager の両方で共有されているパッケージとの競合を避けるために、eDirectory のバージョンを、iManager 2.0.1 の場合は 8.7.1 以降、iManager 2.0.2 の場合は 8.7.3 以降にする必要があります。

eDirectory がインストールされていないサーバに iManager をインストールする場合は、他の使用可能なサーバに eDirectory 8.6.2 以降がインストールされている必要があります。

- ❑ ポートの設定

ポートは競合する可能性があります。Apache、Tomcat、および JVM は、iManager インストールプログラムでインストールされます。iManager インストールプログラムは、インストール中にポート 80 とポート 443 の使用状況を確認します (たとえば、eDirectory は、デフォルトで HTTP スタックとしてポート 80 を使用します)。これらのポートが使用されていると、インストール中に Apache の実行用に別のポートを入力するよう要求するプロンプトが表示されます。

- ❑ ランダムデバイスがインストールされていること

## 手順

- 1 シェルを開いて、`install_directory/installs/unix` ディレクトリに移動します。

このパスは、iManager のファイルをコピーまたは解凍したディレクトリに対する相対パスです。

- 2 次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallSolaris.bin
```

テキストのみの場合は、次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallSolaris.bin -i console
```

- 3 表示される指示に従ってください。

- 4 次のコマンドを実行して、Tomcat を停止して再起動した後、Apache を停止して再起動します。

```
/var/opt/novell/tomcat4/bin/shutdown.sh  
/var/opt/novell/tomcat4/bin/startup.sh  
/var/opt/novell/httpd/bin/apachectl stop  
/var/opt/novell/httpd/bin/apachectl startssl
```

これらのサービスは、ブート時に起動するように設定されていません。

- 5 サポートされているブラウザを起動して、次の URL に移動します。

`https://server_ip_address:port_number/nps/iManager.html`

**重要:** この URL 名では、大文字と小文字が区別されます。サーバの IP アドレスとして、DNS 名を使用することもできます。

- 6 この時点でスキーマが拡張されるので、eDirectory ツリーに対して管理者と同等の権利を持つユーザとしてログインします。
- 7 [はじめに] のヘルプ画面を表示するには、`/var/opt/novell/tomcat4/webapps/nps/help/en/install` ディレクトリにある `gettingstarted.html` ファイルを開きます。

## iManager の HP-UX へのインストール

**重要:** HP-UX で iManager のインストールと設定を行うには、ROOT ユーザである必要があります。

### インストール条件

HP-UX に iManager をインストールする場合は、13 ページの「インストール条件」に記載されている一般的なインストール条件に加えて、次のインストール条件が適用されます。

- 最新のパッチがインストールされた HP-UX 11i オペレーティングシステム

OS がパッチ PHSS\_26560 でアップデートされていることを確認してください。このパッチは、[HP IT Resource Center の Web サイト \(http://www.itrc.hp.com\)](http://www.itrc.hp.com) からダウンロードできます。

- PA-RISC 2.0 プロセッサ
- 400MB のディスク領域
- Sun JVM 1.4.1 以降がインストールされていること
- eDirectory の設定

eDirectory がインストール済みのサーバに iManager をインストールする場合、eDirectory と iManager の両方で共有されているパッケージとの競合を避けるために、eDirectory のバージョンを、iManager 2.0.1 の場合は 8.7.1 以降、iManager 2.0.2 の場合は 8.7.3 以降にする必要があります。

eDirectory がインストールされていないサーバに iManager をインストールする場合は、他の使用可能なサーバに eDirectory 8.6.2 以降がインストールされている必要があります。

- gettext-0.12 がインストールされていること

gettext-0.12 は、[HP-UX Porting and Archive Centre の Web サイト \(http://hpux.connect.org.uk/hppd/hpux/Gnu/gettext-0.12\)](http://hpux.connect.org.uk/hppd/hpux/Gnu/gettext-0.12) からダウンロードできます。

- libiconv-1.9 がインストールされていること

libiconv-1.9 は、[HP-UX Porting and Archive Centre の Web サイト \(http://hpux.connect.org.uk/hppd/hpux/Development/Libraries/libiconv-1.9\)](http://hpux.connect.org.uk/hppd/hpux/Development/Libraries/libiconv-1.9) からダウンロードできます。

- Java 2 SDK for HP-UX バージョン 1.4.1.01 または 1.4.1.02 (バージョン 1.4.1.02 を推奨)

- 1 HP Software DepotのWebサイト ([http://www.software.hp.com/cgi-bin/swdepot\\_parser.cgi/cgi/displayProductInfo.pl?productNumber=HPUXWSSUITE](http://www.software.hp.com/cgi-bin/swdepot_parser.cgi/cgi/displayProductInfo.pl?productNumber=HPUXWSSUITE))からHP-UX Web Server Suite バージョン 1.0.06.01 をインストールします。このスイートには、HP-UX でサポートされているオフィシャルバージョンの Apache と Tomcat が含まれています。iManager 2.0.2 をインストールしている場合、ステップ 4 で新しい Apache の SSL 証明書を作成した後でバージョン 1.0.10.01 にアップデートできます。iManager 2.0.1 をインストールしている場合は、バージョン 1.0.06.01 を使用する必要があります。

**注：**HP-UX Web Server Suite バージョン A100901 および A101001 に含まれている openssl (0.9.7b) バージョンは、Webmin を使用する証明書の生成に問題があります。iManager 2.0.2 をインストールしている場合は、openssl バージョン 0.9.6i が含まれている HP-UX Web Server Suite バージョン A100601 をインストールし、Webmin を使用して Apache 用の新しい SSL 証明書を作成してから、HP-UX Web Server Suite を新しいバージョンにアップデートしてください。将来 Webmin を使用して openssl で証明書を作成する可能性のある場合は、HP-UX Web Server Suite をバージョン A100601 からアップデートする前に /opt/hpws/Apache/bin/openssl のバックアップを作成してください。

すべてのコンポーネントを含むダウンロードを選択します。

HP-UX Apache-based Web Server

HP-UX Tomcat-based Servlet Engine

HP-UX Webmin-based Admin

- 2 HP Java for HP-UXのWebサイト (<http://www.hp.com/go/java>)からJava 1.4.1\_02をインストールして、新しいJavaを参照するようにパスを更新します。
- 3 Tomcatを実行するユーザの環境設定(通常は.bashrcファイルにあります)にある環境変数JAVA\_HOME、CATALINA\_HOME、APACHE\_HOME、およびSHLIB\_PATHを追加してエクスポートします。

例：

```
JAVA_HOME=/opt/java
APACHE_HOME=/opt/hpws/apache
CATALINA_HOME=/opt/hpws/tomcat
SHLIB_PATH=/usr/lib:/usr/lib/nds-modules:$SHLIB_PATH
export JAVA_HOME APACHE_HOME CATALINA_HOME SHLIB_PATH
```

- 4 Apache用の新しい証明書をインストールします。この手順は、インストールを続行する前に完了する必要があります。HP-UX上でApacheとともにインストールされる証明書には、サーバについての正しい情報が含まれていません。信頼できる機関から購入した証明書または自己署名証明書をインストールできます。

Webmin 管理ツールを使用すると、Apacheのキー、証明書、および証明書要求を生成できます。Webminは、HP-UX Web Server Suiteとともにインストールされます。詳細については、Apacheのアドレス ([http://IP\\_ADDRESS](http://IP_ADDRESS)) からアクセスできる HP-UX Web Server Suiteのマニュアルを参照してください。Webminを使用してキー、証明書、および証明書要求を生成する方法については、[http://IP\\_ADDRESS/hp\\_docs/faq/#security11](http://IP_ADDRESS/hp_docs/faq/#security11) を参照してください。

**重要：**新しい証明書を作成するときは、共通名に対して正しいDNS名またはIPアドレスを使用してください。

証明書をApacheディレクトリの/opt/hpws/apache/conf/ssl.crt/ および/opt/hpws/apache/conf/ssl.key/ にコピーします。

- 5 iMan\_20x\_hp.tgzファイルをNovell製品ダウンロード (<http://download.novell.com>)からダウンロードします。

- 6 iMan\_20x\_hp.tgz ファイルを展開します。(たとえば、「gzip -dc iMan\_20x\_hp.tgz | tar xvf -」というコマンドを使用します。)
- 7 端末セッションを終了するかログアウトして、環境変数をロードします。
- 8 インストールファイルを展開した場所から iManager をインストールします。

```
./iManagerInstallHPUX.bin
```

または

```
sh iManagerInstallHPUX.bin
```

テキストのみの場合は、次のコマンドを入力します。

```
./iManagerInstallHPUX.bin -i console
```

**重要:** iManagerインストールプログラムによって、HP-UX Web Server Suiteが検出されるため、iManagerのインストールパスを変更しないでください。

- 9 (状況に応じて実行) ApacheのSSLサポートに問題がある場合やセキュリティ保護されていないポートに接続する場合は、ブラウザとサーブレットエンジンの間のSSL接続の強制をオフにします。/opt/hpws/tomcat/webapps/nps/WEB-INF/web.xml ファイルを編集して、ファイルの最後にある次の行をコメント行にします。

```
<!--
```

```
<security-constraint>
```

```
  <web-resource-collection>
```

```
    <web-resource-name>SSL-requiring Area</web-resource-name>
```

```
    <url-pattern>/servlet/*</url-pattern>
```

```
  </web-resource-collection>
```

```
  <user-data-constraint>
```

```
    <transport-guarantee>CONFIDENTIAL</transport-guarantee>
```

```
  </user-data-constraint>
```

```
</security-constraint>
```

```
-->
```

- 10 Tomcat と Apache を起動します。使用するコマンドは、iManager の設定によって異なります。

```
/opt/hpws/tomcat/bin/startup.sh
```

```
/opt/hpws/apache/bin/apachectl start
```

または

```
/opt/hpws/apache/bin/apachectl startssl
```

**注:** サーバのパフォーマンスによっては、iManager にアクセスできるようになるまで、Tomcat のロードに 60 秒以上かかる場合があります。

- 11 exteNd Director™ 設定ウィザードを実行します。51 ページの「exteNd Director 設定ウィザードの手動による実行」の指示に従ってください。

# iManager の既存バージョンのアップグレード

このセクションでは、iManager の既存バージョンをアップグレードする方法について説明します。

## iManager 1.5x からアップグレードする場合の注意事項

iManager 2.0.x をインストールする場合、既存の 1.x (1.2.2 および 1.5.x) のファイルはすべて変更されません。1.x で RBS ( 役割ベースサービス ) コレクションを設定している場合、既存の 1.x の RBS オブジェクトはすべて Novell eDirectory ツリーに残ります。

iManager 2.0.x で RBS を設定する場合は、iManager 設定ウィザードを使用します。iManager 設定ウィザードを使用すると、1.x の RBS コレクションを 2.0.x の RBS コレクションに移行できます。移行が完了すると、1.x の RBS コレクションは残りますが、既存の 1.x の RBS に関するデータはすべて 2.0.x にも存在するようになります。

**重要:** 1.x の RBS コレクションを移行する前に、役割とタスクに関して 1.x で使用していたものと同じ名前を使用して 2.0.x にプレースホルダを作成する必要があります。

1.x の iManager タスク作成タスクで作成したカスタムタスクとプロパティブックページは移行されません。カスタムタスクやプロパティブックページは、Plug-In Studio を使用してもう一度作成するか、Novell の Web サイトからダウンロードできるユーティリティを使用して移行できます。

サードパーティの役割とプロパティブックページ、および iManager 1.x の SDK を使用して作成した役割とプロパティブックページは移行されません。iManager 2.0 の SDK には、これらのプラグインを iManager 2.0.x に移行するためのユーティリティが含まれています。

iManager 2.0.x 設定ウィザードの詳細については、[38 ページの「RBS のインストール」](#)を参照してください。

## Windows での iManager のアップグレード

### iManager 1.x からのアップグレード

2.0.x インストールプログラムは、ターゲットサーバに 1.x がすでにインストールされているかどうかを調べます。サーバ上に 1.x のインスタンスがある場合は、旧バージョンを削除してよいか確認するプロンプトが表示されます。

1.x を削除することを選択すると、カスタムファイルを除いて、ファイルシステム内にあるすべてのファイルが削除されます。ただし、1.x の RBS オブジェクトは eDirectory ツリーから削除されず、スキーマは同じ状態のまま残ります。

1.x を削除しないことを選択すると、2.0.x インストールプログラムは終了します。

### iManager 2.0.1 からのアップグレード

2.0.x インストールプログラムは、ターゲットサーバに 2.0.x がすでにインストールされているかどうかを調べます。サーバ上に 2.0.x のインスタンスがある場合は、旧バージョンを削除してよいか確認するプロンプトが表示されます。

旧バージョンの 2.0.x を削除することを選択した場合、ファイルシステム内の一部のファイルのみが削除されます。すべての iManager ファイルを削除するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。[はい] を選択すると、カスタムコンテンツを含むすべての iManager ファイルが削除されます。ただし、旧バージョンの 2.0.x の RBS オブジェクトは eDirectory ツリーから削除されず、スキーマは同じ状態のまま残ります。

2.0.x を削除しないことを選択すると、2.0.2 インストールプログラムは終了します。



# Linux での iManager のアップグレード

## iManager 1.x からのアップグレード

Linux では、iManager 1.x から iManager 2.0.x にアップグレードするアプリケーションはありません。iManager インストールプログラムは、バージョン 1.x を検出しようとしません。旧バージョンが見つかった場合は、アンインストールしてよいかどうかを確認するプロンプトが表示されます。アンインストールで削除されるのはファイルだけで、ファイルシステム上にあるカスタムコンテンツや eDirectory の RBS オブジェクトは削除されません。カスタムコンテンツとオブジェクトを移行するには、iManager 移行ウィザードと移行ユーティリティを使用します。

## iManager 2.0.1 からのアップグレード

バージョン 2.0.1 から 2.0.2 にアップグレードする場合、インストールできるコンポーネントの横に「(upgradeable)」と表示されます。バージョン 2.0.2 にアップグレードするには、次の手順に従います。

- 1 18 ページの「iManager の Linux へのインストール」の説明に従ってインストールを実行します。iManager 2.0.2 のファイルがインストールされます。
- 2 38 ページの「RBS のインストール」の説明に従って、iManager 設定ウィザードを実行します。

## HP-UX での iManager のアップグレード

iManager 2.0.1 を 2.0.2 にアップグレードするには、21 ページの「iManager の HP-UX へのインストール」の HP-UX でのインストールに関する説明に従ってください。すべてのインストール条件を満たしていることを確認してください。iManager インストールプログラムは、更新が必要なコンポーネントを自動的に検出してインストールします。

## iManager のアンインストール

iManager または関連するサードパーティコンポーネントをアンインストールするための特別な手順はありません。

これらのコンポーネントをアンインストールすると何らかの影響が出る可能性があります。たとえば、Web サーバまたはサブレットコンテナをアンインストールすると、iManager を実行できなくなります。アンインストールで削除されるのは、最初にインストールされたファイルだけです。たとえば、Tomcat の実行中に作成されたログファイルや自動生成設定ファイルなど、アプリケーションで作成したファイルは、アンインストールによって削除されません。

同様に、インストール時に作成されたディレクトリ構造内に新しいファイルを作成したり既存のファイルを変更した場合、これらのファイルもアンインストールで削除されません。この方法は、製品をアンインストールする際にデータが誤って削除されないようにするために採用されました。

## NetWare 6.0 での iManager のアンインストール

- 1** iManager 2.0.x アンインストールプログラムを実行します。
  - 1a** NetWare の GUI で、[Novell] > [インストール] の順にクリックします。
  - 1b** インストールされている製品のリストで iManager 2.0.1 または iManager 2.0.2 を選択して、[削除] ボタンをクリックします。
  - 1c** (状況に応じて実行) アンインストールを初めて実行した後で致命的エラーメッセージが表示される場合は、iManager 2.0.1 または iManager 2.0.2 を選択して、もう一度 [削除] ボタンをクリックします。
- 2** Web Manager で iManager 1.x の URL をリセットします。
  - 2a** `sys:\webapps\WebAdmin\servers.xml` を開きます。
  - 2b** iManager Service タグの AdminUrl を iManager 1.x に戻します。次の部分を探します。  
`AdminUrl='https://$(host)/nps/iManager.html'`  
これを、次のように変更します。  
`AdminUrl='https://$(host):2200/eMFrame/iManager.html'`
  - 2c** 次の id 属性を変更します。  
`id='iManager'`  
これを、次のように変更します。  
`id='eMFrame'`
- 3** Tomcat 起動パラメータを削除します。 `sys:\tomcat4\bin\tomcat4.ncf` ファイルで、次の行を削除します。  

```
; NetWare iManager Config
setenv CATALINA_OPTS=-server -vm160m -Xmx256m
setenv CATALINA_OPTS=-Xmx256m
```
- 4** 次のファイルとディレクトリを削除します。
  - ◆ `SYS:\tomcat4\webapps\platform.xar`
  - ◆ `SYS:\tomcat4\webapps\nps\*`
  - ◆ `SYS:\tomcat4\work\Standalone\localhost\nps\*`

**重要:** 保存しておくカスタムタスクおよびページを作成した場合は、`webapps\nps\` ディレクトリを削除する前に、`sys:\tomcat4\webapps\nps\packages\Custom.npm` ファイルをバックアップしてください。

## Windows での iManager のアンインストール

Windows から iManager をアンインストールするには、[コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] を使用します。iManager のインストール時に Apache、Tomcat、または NICI をインストールした場合、これらは [プログラムの追加と削除] で独立して表示されます。この場合、各プログラムを個別にアンインストールする必要があります。

**警告:** iManager と同じコンピュータ上に eDirectory がインストールされている場合、eDirectory を実行するために NICI が必要な可能性があります。

iManager 2.0.x を削除する場合、ファイルシステム内の一部のファイルのみが削除されます。すべての iManager ファイルを削除するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。[はい] を選択すると、カスタムコンテンツを含むすべての iManager ファイルが削除されます。ただし、2.0.x の RBS オブジェクトは eDirectory ツリーから削除されず、スキーマは同じ状態のまま残ります。

## Linux での iManager のアンインストール

- 1 シェルを開いて、iMan\_20x\_linux.tgz ファイルからインストールファイルを展開したときに作成された iManager\_linux ディレクトリに移動します。
- 2 次のインストールスクリプトを実行します。  

```
./install.sh
```
- 3 インストールとアンインストールのどちらを実行するのかを質問するプロンプトが表示されます。「u」を入力してアンインストールを選択します。
- 4 アンインストールする製品が表示されます。すべてをアンインストールするには「a」を入力します。
- 5 プロンプトが表示されたら、eDirectory 管理者のアカウント情報を入力します。

注：このアンインストール手順では、設定ファイルとログファイルは削除されません。

## Solaris での iManager のアンインストール

- 1 root としてログインします。
- 2 次のコマンドを実行します。  

```
/var/opt/novell/tomcat4/nps/UninstallerData/UninstalliManager
```
- 3 すべての iManager ファイルを削除するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。カスタムコンテンツを含むすべてのファイルを削除する場合は [はい]、そうでない場合は [いいえ] を選択します。

## HP-UX での iManager のアンインストール

- 1 root としてログインします。
- 2 次のコマンドを実行します。  

```
/opt/hpws/tomcat/webapps/nps/UninstallerData/  
UninstalliManager
```
- 3 すべての iManager ファイルを削除するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。カスタムコンテンツを含むすべてのファイルを削除する場合は [はい]、そうでない場合は [いいえ] を選択します。

注：削除されるのは、ファイルシステム内の一部のファイルだけです。このアンインストール手順では、iManager 2.0.x の RBS オブジェクトは eDirectory ツリーから削除されず、スキーマは同じ状態のまま残ります。



# 3

## iManage へのアクセス

このセクションでは、iManager にアクセスするために必要な次の作業について説明します。

- ◆ 29 ページの「サポートされている Web ブラウザの使用」
- ◆ 29 ページの「iManager へのログイン」
- ◆ 30 ページの「スクリーンリーダーなどのユーザ補助機能を使用して iManager にアクセスする」
- ◆ 30 ページの「別のツリーへのログイン」

### サポートされている Web ブラウザの使用

iManager にアクセスするには、Internet Explorer 6 SP1 以降、Netscape 7.1 以降、または Mozilla 1.4 以降がインストールされているコンピュータを使用する必要があります。

Netscape または Mozilla のブラウザを使用すると、次の問題が発生します。

- ◆ iManager のボタンのヒント機能が動作しない場合がある。
- ◆ iManager の複数選択機能を使用できない。
- ◆ オブジェクト表示を使用できない。
- ◆ iMonitor による修復タスクが機能しない。
- ◆ インストールおよびアップグレードプラグインタスクが機能しない。

### iManager へのログイン

Novell® iManager にアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 サポートされている Web ブラウザ(サポートされている Web ブラウザの使用参照)で、アドレス (URL) フィールドに次のアドレスを入力します。

```
http://server_IP_address/nps/iManager.html
```

例：

```
http://137.65.135.150/nps/iManager.html
```

- 2 自分のユーザ名とパスワードを使用してログインします。

権利を持つ機能に対してのみアクセスできます。Novell iManager の機能をすべて使用するには、ツリーのスーパーバイザとしてログインする必要があります。

# スクリーンリーダーなどのユーザ補助機能を使用して iManager にアクセスする

iManager には、スクリーンリーダーとともに効果的に使用できるシンプルな表示があります。この表示を使用するには、次の手順に従います。

- 1 Web ブラウザで、アドレス (URL) フィールドに次のアドレスを入力します。

`http://server_IP_address/nps/Simple.html`

例：

`http://137.65.135.150/nps/Simple.html`

- 2 自分のユーザ名、コンテキスト、パスワード、および eDirectory™ ツリー名を使用してログインします。

権利を持つ機能に対してのみアクセスできます。Novell iManager の機能をすべて使用するには、ツリーのスーパーバイザとしてログインする必要があります。


ユーザ補助機能の詳細については、[Novell の Web サイト \(http://www.novell.com/accessibility\)](http://www.novell.com/accessibility) を参照してください。

## 別のツリーへのログイン

iManager から別のツリーにログインできますが、次のような制限があります。

- ◆ 無制限アクセスモードの認証のみを使用できます。使用可能なモードの詳細については、[32 ページの「アクセスモード」](#) を参照してください。
- ◆ RBS ( 役割ベースサービス ) を設定できません。
- ◆ RBS が iManager 2.0.x を使用して特定のツリー内にインストールされたものでなければ、eDirectory 管理タスクは使用できません。
- ◆ iManager 設定タスクは使用できません。
- ◆ [MONITOR] ボタンは使用できません。

別のツリーにログインするには、次の手順に従います。

- 1 iManager で [別のツリーにログイン] ボタン () をクリックします。
- 2 そのツリーのログイン情報を入力して、[ログイン] をクリックします。

## 次の手順

- ◆ RBS ( 役割ベースサービス ) を設定するには、[5 章 35 ページの「役割ベースサービスの設定」](#) を参照してください。
- ◆ iManager をカスタマイズするには、[7 章 47 ページの「iManager の設定とカスタマイズ」](#) を参照してください。

# 4

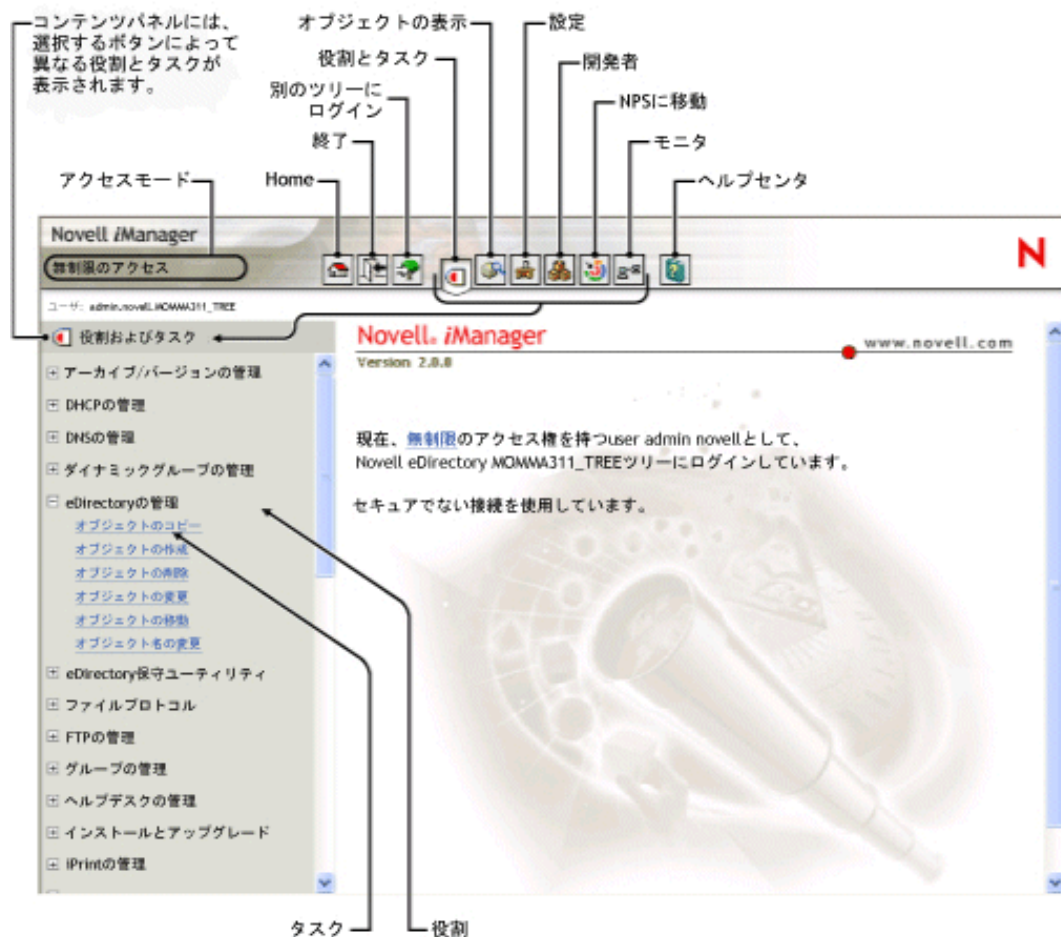
## iManager インタフェース内での移動

このセクションでは、Novell® iManager 2.0.x のインタフェース内で移動する方法について説明します。

### iManager のインタフェース

次の図に、iManager のインタフェースを示します。





図 1 iManager のインタフェース




注：iManager を使用する場合は、必ずインタフェース内のボタン（[OK] や [次へ] など）を使用します。iManager ではブラウザのツールバーボタン（[戻る] や [次へ] など）はサポートされていません。

## コンテンツパネル

コンテンツパネルには、ナビゲーションペインが表示されます。表示される内容は、ツールバーで選択したボタンによって異なります。

[役割およびタスク] ボタン ()、[設定] ボタン ()、[お気に入り] ボタン ()、または [ディベロッパ] ボタン () を選択した場合、コンテンツパネルにはユーザが関連付けられている役割が表示されます。各役割に関連付けられているタスクは役割の下に表示されます。

[オブジェクトの表示] ボタン () を選択した場合、コンテンツパネルには iManager オブジェクトセレクトアが表示されます。iManager オブジェクトセレクトアを使用すると、eDirectory ツリー内のオブジェクトを参照または検索できます。

## オブジェクトセレクトアの使用

iManager オブジェクトセレクトアを使用する場合は、次のガイドラインに従ってください。

1. ドット付きの NDS 名では、次の文字をバックスラッシュ (\) でエスケープする必要があります。
  - ◆ ピリオド (.)
  - ◆ 等号 (=)
  - ◆ プラス (+)
  - ◆ バックスラッシュ (\)
2. 名前が DN または RDN の場合、ほとんどの値で文字をエスケープする必要はありません。
3. 検索フィルタでは、次の文字をバックスラッシュでエスケープする必要があります。
  - ◆ アスタリスク (\*)
  - ◆ バックスラッシュ (\)

例：

ピリオドを含むすべてのオブジェクトを検索する場合、検索フィルタは「\*.\*」です。

プラスを含むすべてのオブジェクトを検索する場合、検索フィルタは「\*+\*」です。

ただし、バックスラッシュを含むすべてのオブジェクトを検索する場合、検索フィルタは「\*\\*」となります。

## アクセスモード

iManager を起動すると、割り当てられている権利に基づいて「アクセスモード」が設定されます。iManager には、4 種類のアクセスモードがあります。現在のモードは、iManager インタフェースの左上隅に表示されます。

- ◆ 無制限

このモードでは、インストールされているすべての役割とタスクが表示されます。すべての役割とタスクが表示されても、認証されたユーザがタスクを使用するには権利が必要なことに変わりはありません。



- ◆ 割り当て済み

このモードでは、認証されたユーザに割り当てられている役割とタスクのみが表示されます。このモードでは、役割ベースサービステクノロジーがフルに活用されています。

- ◆ コレクション所有者

このモードでは、コレクションにインストールされているすべての役割とタスクが表示されます。特定の権利が割り当てられていない場合でも、ユーザ **Admin** はコレクション内にあるすべての役割とタスクを使用できます。このモードを使用するには、役割ベースサービスをインストールする必要があります。

- ◆ ツリーダウン

トラブルシューティング用のモードです。ネットワーク上の **eDirectory** サービスを使用できない場合以外は使用しないでください。このモードにアクセスするには、**Tomcat** を停止して再起動する必要があります。

## 特殊文字

iManager では一部の文字に特別な意味があり、バックスラッシュ文字でエスケープする必要があります。

NDAP (NDS): . = + \

LDAP:

- ◆ DN: , = + \ ; < >
- ◆ 先頭の #
- ◆ 先頭および末尾のスペース

LDAP の場合、任意の文字を `\xx` で指定できます (RFC2253)。



# 5

## 役割ベースサービスの設定

この章では、RBS (役割ベースサービス) を定義し、Novell® iManager で RBS を実行する方法について説明します。以下の説明では、iManager が正常にインストールされていると想定しています。

### 概要

iManager を使用すると、ユーザに特定の責任を割り当て、その一連の責任のみを遂行するために必要なツールを、付随する権利と共にユーザに提供できます。この機能は、RBS (役割ベースサービス) と呼ばれます。

役割ベースサービスを使うと、定義した一連の特定機能 (タスク) と、タスクのグループによって決定されるオブジェクト (役割) をユーザに割り当てることができます。ユーザが Novell iManager にアクセスしたときの表示内容は、Novell eDirectory™ で割り当てられた役割によって異なります。認証されたユーザに割り当てられているタスクだけが表示されます。ユーザは、管理するオブジェクトを探すためにツリーを参照する必要はありません。タスクに割り当てられたプラグインによって、タスクの実行に必要なツールとインターフェースが提供されます。

1 人のユーザに複数の役割を割り当てることができます。複数のユーザに同一の役割を割り当てることができます。

### デフォルトの役割とタスク

iManager には、役割とタスクのデフォルトのセットが用意されています。デフォルトのセットはそのまま使用することも、カスタマイズして使用することもできます。iManager 2.0.x には、次のような役割および関連するタスクの基本的なセットが用意されています。

- ◆ ダイナミックグループ
  - ダイナミックグループの作成
  - 拡張オブジェクトの作成
  - ダイナミックグループの削除
  - ダイナミックグループの変更
- ◆ eDirectory の管理
  - オブジェクトのコピー
  - オブジェクトの作成
  - オブジェクトの削除
  - オブジェクトの変更
  - オブジェクトの移動
  - オブジェクトのリネーム



- ◆ グループ
  - グループの作成
  - グループの削除
  - グループの変更
- ◆ ヘルプデスク
  - ロックアウトのクリア
  - ユーザの作成
  - パスワードの設定
- ◆ パーティションとレプリカ
  - パーティションの作成
  - パーティションのマージ
  - パーティションの移動
  - レプリカビュー
  - パーティション情報の表示
- ◆ 権利
  - 権利継承フィルタの変更
  - トラスティの変更
  - 他のオブジェクトに対する権利
  - 有効な権利の表示
- ◆ スキーマ
  - 属性の追加
  - 属性の情報
  - クラス情報
  - 属性の作成
  - クラスの作成
  - 属性の削除
  - クラスの削除
  - オブジェクトの拡張
- ◆ サーバ
  - NetWare Remote Manager の起動
- ◆ ユーザ
  - ユーザの作成
  - ユーザの削除
  - アカウントを無効にする
  - アカウントを有効にする
  - ユーザの変更

## eDirectory 内の RBS オブジェクト

RBS ( 役割ベースサービス ) は、eDirectory で定義されているオブジェクトによって表されます。基本の eDirectory スキーマは、iManager 設定ウィザードの実行中に拡張されません。新しい RBS オブジェクトタイプの一覧を次の表に示します。

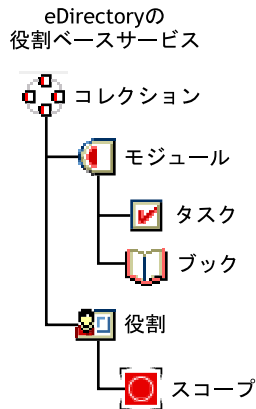
表 1 eDirectory 内の RBS オブジェクト

オブジェクト	説明
 rbsCollection	<p>すべてのRBS役割オブジェクトとモジュールオブジェクトを格納するコンテナオブジェクトを表します。</p> <p>rbsCollection オブジェクトは、すべての RBS オブジェクトの最上位コンテナです。1 つのツリーに、任意の数の rbsCollection オブジェクトを格納できます。これらのオブジェクトの所有者は、コレクションを管理する権利を持つユーザです。</p> <p>rbsCollection オブジェクトは、次のいずれかのコンテナに作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>◆ 国</li><li>◆ ドメイン</li><li>◆ 地域</li><li>◆ 組織</li><li>◆ 部門</li></ul>
 rbsRole	<p>ユーザ ( メンバー ) に実行を許可するタスクを指定します。役割の定義作業は、rbsRole オブジェクトの作成と作成した役割で実行できるタスクの指定から構成されます。</p> <p>rbsRoles は、rbsCollection コンテナ内にのみ作成できるコンテナオブジェクトです。</p> <p>役割のメンバーになることができるのは、ユーザ、グループ、組織、部門です。これらのメンバーは、ツリー内の特定のスコープで役割に関連付けられます。rbsTask オブジェクトと rbsBook オブジェクトは、rbsRole オブジェクトに割り当てられます。</p>
 rbsTask	<p>ログインパスワードのリセットなど、特定の機能を保持するリーフオブジェクトを表します。</p> <p>rbsTask オブジェクトは、rbsModule コンテナ内にのみ配置されます。</p>
 rbsBook	<p>ブックに割り当てられているページのリストを格納するリーフオブジェクトを表します。rbsBook は、1 つ以上の役割と 1 つ以上のオブジェクトクラスタイプに割り当てることができます。</p> <p>rbsBook オブジェクトは、rbsModule コンテナ内にのみ配置されます。</p>

オブジェクト	説明
 rbsScope	<p>各ユーザオブジェクトについて割り当てを行う代わりにACL割り当てを行う場合に使用するリーフオブジェクトを表します。rbsScope オブジェクトは、役割が実行されるツリー内のコンテキストを表し、rbsRole オブジェクトに関連付けられます。これらは、グループクラスから派生します。ユーザオブジェクトは、rbsScope オブジェクトに割り当てられません。これらのオブジェクトは、関連付けられているツリーのスコープを参照できます。</p> <p>このオブジェクトは必要に応じて動的に作成され、不要になれば自動的に削除されます。これらのオブジェクトは、rbsRole コンテナ内にのみ配置されます。</p> <p><b>警告</b> : rbsScope オブジェクトの設定は変更しないでください。変更すると、重大な結果が生じ、システムが中断する可能性があります。</p>
 rbsModule	<p>rbsTask オブジェクトと rbsBook オブジェクトを保持するコンテナオブジェクトを表します。rbsModule オブジェクトには、タスクまたはブックを定義する製品名を表すモジュール名属性があります (たとえば、eDirectory Maintenance Utilities、NMAS Management、Novell Certificate Server Access など)。</p> <p>rbsModule オブジェクトは、rbsCollection コンテナ内にのみ作成できます。</p>

RBS オブジェクトは、eDirectory ツリー内で次の図のように配置されます。

図 2 eDirectory ツリー内の RBS オブジェクト



## RBS のインストール

RBS ( 役割ベースサービス ) をインストールするには、iManager 設定ウィザードを使用します。

**重要** : RBS の使用はオプションですが、iManager ソフトウェアを最適に使用するために RBS を設定することをお勧めします。

iManager 設定ウィザードを起動するには、次の手順に従います。

- 1 iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 [RBS の設定] > [iManager の設定] の順に選択します。

3 次のいずれかのオプションを選択します。

- ◆ 新しいコレクションの作成 (iManager 2.x)

新しい iManager 2.x コレクションオブジェクトを作成します。他の方法を選択する前に、まずこの方法を実行してみることをお勧めします。

- ◆ 以前のコレクションの移行

iManager 1.x のコレクション情報を iManager 2.0.x に移行します。

**重要:** 1.x の RBS コレクションを移行する前に、役割とタスクについて 1.x で使用していたものと同じ名前を使用して、2.0.x コンテナで使用する 1.x モジュールをインストールする必要があります。

カスタムの役割とカスタムのプロパティブックは iManager 2.0.x に移行できませんが、iManager 1.x の Task Builder または iManager 1.x のサードパーティプラグインを使用して作成したカスタムタスクとカスタムページは移行できません。iManager 2.0.x を使用して、もう一度作成する必要があります。

- ◆ 以前の役割の関連付けを移行

iManager 1.x の役割の関連付けを iManager 2.0.x に移行します。

- ◆ コレクションのアップグレード

権利があるコレクションオブジェクトをアップグレードします。

4 いずれかを選択したら、[次へ] をクリックして画面の指示に従います。

一部のタスクでは、ユーザのスコープで指定されるコンテナにスーパーバイザ権が割り当てられます。このようなタスクの詳細については、39 ページの「権利」を参照してください。

**重要:** RBS (役割ベースサービス) オブジェクトの変更や削除に ConsoleOne® を使用しないでください。RBS オブジェクトの管理には、iManager のみを使用してください。

## 権利

iManager でタスクを実行するのに、コンテナに対するスーパーバイザ権が必要な場合があります。ユーザまたはグループに役割を割り当てるときに、管理者はスコープを設定するように求められます。スコープは、ツリー内で権利を割り当てる範囲を定義します。たとえば、iPrint 役割をユーザに割り当ててスコープをツリーの最上位に設定すると、その役割を割り当てられたユーザにはツリー全体に対するスーパーバイザオブジェクトエントリ権が与えられます。

**注:** [割り当てられた権利] と [スコープ] は独立しており、必ずしもタスクに権利を割り当てなければならないというわけではありません。

[割り当てられた権利] チェックボックスをオンにすると、ユーザのスコープ内で指定されるコンテナにスーパーバイザ権を割り当てるタスクが次の役割に含まれます。

- ◆ アーカイブ / バージョン管理
- ◆ DHCP
- ◆ DNS
- ◆ eDirectory の管理
- ◆ eDirectory の保守
- ◆ iPrint
- ◆ NetStorage

- ◆ Novell 証明書アクセス
- ◆ Novell Certificate Server
- ◆ パーティションとレプリカ
- ◆ スキーマ
- ◆ ストレージ
- ◆ WAN トラフィック

新しいモジュールを使用できるようになると、そのモジュールにスーパーバイザ権を設定できます。詳細については、『Novell iManager: Planning Security for Delegated Administration (<http://www.novell.com/collateral/4621360/4621360.html>)』と題された白書を参照してください。

## RBS 役割の定義

RBS 役割によって、ユーザに実行を許可するタスクを指定できます。RBS 役割の定義作業は、rbsRole オブジェクトの作成、役割が実行できるタスクの指定、およびそのタスクを実行できるユーザ、グループ、またはコンテナオブジェクトの指定から構成されます。Novell iManager プラグイン (製品パッケージ) に定義済みの RBS 役割が用意されている場合には、それらの役割を変更して使用できます。


RBS 役割で実行できるタスクは、rbsTask オブジェクトとして eDirectory ツリーに表示されます。rbsTask オブジェクトは、製品パッケージのインストール時に自動的に追加されます。追加された rbsTask オブジェクトは、1 つまたは複数の rbsModule に編成されます。rbsModule は、製品のさまざまな機能モジュールに対応しているコンテナです。

以下のセクションでは、役割オブジェクトを管理する方法について説明します。

- ◆ [40 ページの「役割オブジェクトの作成」](#)
- ◆ [41 ページの「役割に関連付けられているタスクの変更」](#)
- ◆ [41 ページの「RBS 役割のメンバーシップとスコープの割り当て」](#)
- ◆ [41 ページの「役割ベースサービスオブジェクトの削除」](#)
- ◆ [42 ページの「カスタムの RBS タスクの定義」](#)

## 役割オブジェクトの作成


新しい rbsRole オブジェクトを作成するには、iManager 役割作成ウィザードを使用します。新しい役割オブジェクトは、他の役割オブジェクトが保存されているコレクションコンテナ (たとえば、役割ベースサービスコレクションコンテナ) に作成することをお勧めします。

- 1 Novell iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 [役割の設定] > [iManager の役割を作成] の順にクリックします。
- 3 iManager 役割作成ウィザードの指示に従います。
- 4 役割にメンバーを追加する方法については、[42 ページの「カスタムの RBS タスクの定義」](#) を参照してください。



## 役割に関連付けられているタスクの変更

各 RBS 役割には、有効なタスクのセットが関連付けられます。特定の役割に割り当てるタスクは選択でき、必要に応じて追加または削除できます。

- 1 Novell iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 [役割の設定] > [「iManager の役割を変更」] の順にクリックします。
- 3 役割に対してタスクを追加または削除するには、変更する役割の左にある [タスクの変更] ボタンをクリックします。
- 4 [割り当てられたタスク] リストに対して、タスクの追加または削除を行います。
- 5 [OK] をクリックします。

## RBS 役割のメンバーシップとスコープの割り当て


組織に必要な RBS 役割を定義した後は、各役割にメンバーを割り当てることができます。このときに、各メンバーが役割の機能を実行できるスコープを指定します。スコープとは、この役割を実行できる eDirectory ツリー内の場所またはコンテキストです。

ユーザを役割に割り当てる方法には、次のようなものがあります。


- ◆ 直接割り当てる。
- ◆ グループおよびダイナミックグループの割り当てを使用する。ある役割に割り当てられているグループまたはダイナミックグループのメンバーであるユーザは、その役割にアクセスできます。
- ◆ 職種の割り当てを使用する。ある役割が割り当てられている職種に属するユーザは、その役割にアクセスできます。
- ◆ コンテナの割り当てを使用する。ユーザオブジェクトは、親コンテナに割り当てられているすべての役割にアクセスできます。これには、ツリーのルートまでの他のコンテナも含まれます。

1 人のユーザに対し、1 つの役割を 1 回ごとに別のスコープで複数回関連付けることができます。複数のメンバーに同一のタスクを割り当てることもできます。

役割のメンバーシップとスコープを割り当てるには、次の手順に従います。

- 1 Novell iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 [役割の設定] > [「iManager の役割を変更」] の順にクリックします。
- 3 役割に対してメンバーを追加または削除するには、変更する役割の左にある [メンバーの変更] ボタンをクリックします。
- 4 [名前] フィールドで、オブジェクト名 (ユーザ、グループ、またはコンテナオブジェクト) とコンテキストを指定します。
- 5 [スコープ] フィールドで、組織または部門オブジェクトの名前とコンテキストを指定します。
- 6 [追加] をクリックして、[OK] をクリックします。

## 役割ベースサービスオブジェクトの削除

- 1 Novell iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 [役割の設定] > [役割の削除] の順にクリックします。
- 3 削除する RBS 役割の名前とコンテキストを指定します。
- 4 [OK] をクリックします。

## カスタムの RBS タスクの定義

以下のセクションでは、カスタムの RBS タスクを定義および管理する方法について説明します。


- ◆ 42 ページの「iManager のタスクの作成」
- ◆ 42 ページの「サーバ管理タスクの作成」
- ◆ 42 ページの「役割の割り当ての変更」
- ◆ 42 ページの「タスクの削除」

### iManager のタスクの作成


- 1 Novell iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 [タスクの設定] > [iManager のタスクを作成] の順にクリックします。
- 3 Task Builder の説明に従ってカスタムタスクを作成します。

### サーバ管理タスクの作成


サーバのサービスにアクセスするためにカスタムタスクを作成するには、サーバ管理タスク作成ウィザードを使用します。システム管理者は、そのサービスがサーバ上で使用できるか確認してください。

- 1 Novell iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 [タスクの設定] > [サーバ管理タスクの作成] の順にクリックします。
- 3 サーバ管理タスク作成ウィザードの指示に従います。

### 役割の割り当ての変更

- 1 Novell iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 [タスクの設定] > [役割の割り当てを変更] の順にクリックします。
- 3 変更するタスクの名前とコンテキストを指定して、[次へ] をクリックします。
- 4 変更する役割を [使用可能な役割] から [割り当て役割] に移動します。
- 5 [OK] をクリックします。

### タスクの削除

- 1 Novell iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 [タスクの設定] > [タスクの削除] の順にクリックします。
- 3 削除するタスクの名前とコンテキストを指定して、[OK] をクリックします。

# 6

## iManager プラグインのインストールと使用

iManager には、eDirectory 管理、パーティションとレプリカ、ダイナミックグループなど、中心となる一連のプラグインが付属しています。しかし、多くの Novell® 製品には、製品固有のプラグインが含まれています。たとえば、DirXML® には、Novell eDirectory™ 内にあるすべての DirXML オブジェクトを管理および設定するためのプラグインが含まれています。

通常、プラグインは、iManager または製品のインストールの一部としてインストールしますが、製品のインストールとは別にプラグインをダウンロードしたりインストールすることもできます。

### プラグインのダウンロードとインストール

iManager のプラグインは、Novell 製品ダウンロードの Web サイト (<http://download.novell.com/pages/PublicSearch.jsp?filter=category&filterselection=180>) からダウンロードできます。

**注:** デフォルトでは、プラグインは iManager サーバ間で複製されません。必要なプラグインは、各 iManager サーバ上にインストールすることをお勧めします。

プラグインをダウンロードしてインストールする手順は、RBS を設定したかどうかによって異なります。RBS の詳細については、5 章 35 ページの、「**役割ベースサービスの設定**」を参照してください。

- ◆ RBS を設定していない場合、アクセス権に関係なくすべてのタスクがコンテンツパネルに表示され、プラグインのインストール以外に設定は必要ありません。43 ページの「**RBS を設定していない場合のプラグインのインストール**」を参照してください。
- ◆ RBS を設定している場合は、コレクションをアップグレードしないと新しいプラグインを使用できません。44 ページの「**RBS を設定している場合のプラグインのインストール**」を参照してください。

### RBS を設定していない場合のプラグインのインストール

- 1 製品ダウンロード Web サイトで、[Search by] の [Category] を選択し、[choose a category] で [iManager Plug-Ins] を選択して、[Submit Search] をクリックします。

製品別に分類されたプラグインのリストが表示されます。


- 2 ダウンロードするプラグインをクリックし、そのプラグイン特有の情報を読んで、テキストウィンドウを閉じます。

**注:** プラグインは、パッケージ化されたモジュール (NPM) になっています。これらのモジュールには、1 つ以上のプラグインを格納できます。

- 3 [Download] ボタンをクリックし、ログインして、ダウンロードの合意事項を読みます。

まだ登録していない場合は、無料で登録できます。

- 4 iManager がインストールされているシステムに *plug-in.npm* をダウンロードします。


- 5 iManager にログインします。
  - 6 [設定] ボタン  をクリックします。
  - 7 [iManager の設定] > [モジュール] の順にクリックし、[インストール] をクリックして、モジュールパッケージをインストールします。
  - 8 インストールする *plug-in.npm* ファイルを選択します。  
このインストールには数分かかります。
  - 9 Tomcat を再起動します。
- 注:** Tomcat を完全に初期化するために数分かかる場合があります。5 分以上待ってから iManager にログインしてください。

プラットフォーム	再起動コマンド
NetWare® 6 以降	「TC4STOP」と入力します。1 分以上待ってから「TOMCAT4」と入力して、サービスを再起動します。
Windows	Tomcat サービスを停止して起動します。
Solaris	「/var/opt/novell/tomcat4/bin/shutdown.sh」と入力した後、「/var/opt/novell/tomcat4/bin/startup.sh」と入力します。
HP-UX	「/opt/hpws/tomcat/bin/shutdown.sh」と入力した後、「/opt/hpws/tomcat/bin/startup.sh」と入力します。
Linux	「/etc/init.d/novell-tomcat4 stop」と入力した後、「/etc/init.d/novell-tomcat4 start」と入力します。

- 10 [役割およびタスク] ページに新しい役割が表示されることを確認します。  
新しい役割にメンバーを追加するには、メンバー関連付け変更タスクを使用します。

## RBS を設定している場合のプラグインのインストール

**重要:** 既存のプラグインを再インストールするには、[モジュール設定] > [RBS モジュールの削除] タスクを使用して、そのプラグインの rbsModule オブジェクトを eDirectory™ から削除しておく必要があります。

- 1 製品ダウンロード Web サイトで、[Search by] の [Category] を選択し、[choose a category] で [iManager Plug-Ins] を選択して、[Submit Search] をクリックします。  
製品別に分類されたプラグインのリストが表示されます。
- 2 ダウンロードするプラグインをクリックし、そのプラグイン特有の情報を読んで、テキストウィンドウを閉じます。  
**注:** プラグインは、パッケージ化されたモジュール (NPM) になっています。これらのモジュールには、1 つ以上のプラグインを格納できます。
- 3 [Download] ボタンをクリックし、ログインして、ダウンロードの合意事項を読みます。  
まだ登録していない場合は、無料で登録できます。
- 4 iManager がインストールされているシステムに *plug-in.npm* をダウンロードします。
- 5 iManager にログインします。
- 6 [設定] ボタン  をクリックします。

- 7 [iManager の設定] > [モジュール] の順にクリックし、[インストール] をクリックして、モジュールパッケージをインストールします。
- 8 インストールする *plug-in.npm* ファイルを選択します。  
このインストールには数分かかります。
- 9 Tomcat を再起動します。

注：Tomcat を完全に初期化するために数分かかる場合があります。5 分以上待ってから iManager にログインしてください。

プラットフォーム	再起動コマンド
NetWare 6 以降	「TC4STOP」と入力します。1 分以上待ってから「TOMCAT4」と入力して、サービスを再起動します。
Windows	Tomcat サービスを停止して起動します。
Solaris	「/var/opt/novell/tomcat4/bin/shutdown.sh」と入力した後、「/var/opt/novell/tomcat4/bin/startup.sh」と入力します。
HP-UX	「/opt/hpws/tomcat/bin/shutdown.sh」と入力した後、「/opt/hpws/tomcat/bin/startup.sh」と入力します。
Linux	「/etc/init.d/novell-tomcat4 stop」と入力した後、「/etc/init.d/novell-tomcat4 start」と入力します。

- 10 iManager にログインして、[設定] ボタンをクリックします。
- 11 [RBS の設定] で [iManager の設定] を選択します。
- 12 [コレクションのアップグレード] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 13 正しいコレクションが選択されていることを確認して、[次へ] をクリックします。  
新しいプラグインが [インストールするモジュール] の下に表示されます。
- 14 インストールするプラグインを選択し、スコープを割り当てて、[開始] をクリックします。
- 15 「完了」というメッセージが表示されるまで待ち、[閉じる] をクリックします。
- 16 [役割およびタスク] ページに新しい役割が表示されることを確認します。  
新しい役割にメンバーを追加するには、メンバー関連付け変更タスクを使用します。



# 7

## iManager の設定とカスタマイズ

このセクションでは、次の Novell® iManager 2.0.x の機能をカスタマイズする方法について説明します。

- ◆ [47 ページの「コンテキストレスログインの設定」](#)
- ◆ [49 ページの「eDirectory への SSL/TLS 接続のための iManager の設定」](#)
- ◆ [50 ページの「使用できるボタンのカスタマイズ」](#)
- ◆ [51 ページの「exteNd Director 設定ウィザードの手動による実行」](#)
- ◆ [53 ページの「負荷分散とフェールオーバーの設定」](#)
- ◆ [54 ページの「オブジェクトの作成タスクにオブジェクトのクラスを追加する」](#)

### コンテキストレスログインの設定

コンテキストログインを使用すると、ディレクトリコンテキストを指定せずにログインできます。iManager では、ユーザが次の条件を満たしている場合コンテキストログインがデフォルトで有効になります。

- ◆ ユーザがサーバの Admin ユーザオブジェクトまたは iManager PCO オブジェクトと同じコンテナにいる場合。サブコンテナも自動的に検索されます。
- ◆ ユーザがログインに CN 属性を使用している場合。
- ◆ ユーザクラスとして inetOrgPerson を持っている場合。inetOrgPerson は、このクラスの LDAP 名です。このクラスの eDirectory 名は User です。


この条件を満たしていないユーザがいる場合は、コンテキストログインを設定してコンテナ、属性、またはユーザクラスを追加する必要があります。以下のセクションを参照してください。

- ◆ [47 ページの「ポータルコンテナの追加」](#)
- ◆ [48 ページの「他の属性の追加」](#)
- ◆ [48 ページの「ユーザオブジェクトクラスの変更」](#)
- ◆ [48 ページの「コンテキストログインの有効化または無効化」](#)

### ポータルコンテナの追加

デフォルトでは、コンテキストレスログインのポータルコンテナとして iManager PCO オブジェクトのコンテキストと Admin ユーザのコンテキストが設定されます。他のコンテナにユーザオブジェクトが存在している場合は、そのコンテナをコンテキストログインの検索パスに追加する必要があります。

コンテキストレスログイン用に他のコンテナを追加するには、次の手順に従います。

- 1 iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 コンテンツパネルで、[iManager の設定] > [ポータル] の順にクリックします。
- 3 右ペインで、[プロパティ] をクリックします。
- 4 [追加] ボタンと [削除] ボタンを使用して、コンテナを選択して追加します。

ポータルコンテナとして設定する必要があるのは最上位コンテナだけです。ポータルコンテナ以下のサブコンテナは、自動的にコンテキストログインで機能します。


- 5 変更を保存します。

新しい設定を使用するようにポータルが自動的に更新されます。ポータルを手動で更新するには、[ポータルの更新]>[すべてを更新]>[リフレッシュ]の順にクリックします。

## 他の属性の追加

ポータルでは、ユーザオブジェクトの CN 以外の属性 (電子メールアドレスやフルネームなど) でコンテキストレスログインすることもできます。

コンテキストレスログイン用に他の属性を追加するには、次の手順に従います。

- 1 iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 コンテンツパネルで、[iManager の設定] > [ポータル] の順にクリックします。
- 3 右ペインで、[設定] をクリックします。
- 4 [コンテキストレスログインに使用する属性] で [編集] をクリックします。

表示されるウィンドウで、属性をリストに追加します。すべての属性は LDAP 形式です。属性を設定しない場合、CN が使用されます。属性を設定する場合は、CN も指定する必要があります。

- 5 変更を保存します。

## ユーザオブジェクトクラスの変更

ポータルでは、inetOrgPerson 以外のオブジェクトクラス (Person や Organizational Person など) でコンテキストレスログインすることもできます。たとえば、Organizational Person クラスと User クラスが含まれている Person クラスから派生するすべてのオブジェクトをコンテキストログインで検索するには、\$TOMCAT\_HOME\$/webapps/nps/WEB-INF にある PortalServlet.properties ファイルに次の行を追加します。

```
System.UserClass=person
```


注: eDirectory では、User は LDAP の inetOrgPerson クラスのクラス名です。

## コンテキストログインの有効化または無効化

コンテキストログインを無効にすると、ユーザは自分の完全識別名 (「cn=user,o=container」など) を入力しないとログインできなくなります。有効にすると、ディレクトリコンテキストを指定する必要がなくなり、ログイン属性 (通常は CN) を使用するだけでログインできます。デフォルトでは、コンテキストログインは有効になっています。



コンテキストログインを有効または無効にするには、次の手順に従います。

- 1 iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 コンテンツパネルで、[iManager の設定] > [ポータル] の順にクリックします。
- 3 右ペインで、[設定] をクリックします。
- 4 [コンテキストログインを有効にする] で、[オン] または [オフ] ラジオボタンを選択します。
- 5 変更を保存します。

## eDirectory への SSL/TLS 接続のための iManager の設定

一部のプラグインを正しく機能させるには、セキュリティ保護された LDAP アクセスが必要です。保護されたアクセスを設定するには、次のタスクを実行してルート証明書を iManager にインポートする必要があります。

- ◆ [49 ページの「ルート証明書のエクスポート」](#)
- ◆ [50 ページの「eDirectory 証明書のキーストアへのインポート」](#)

### ルート証明書のエクスポート

- 1 iManager にログインします。
- 2 コンテンツパネルで、[eDirectory 管理] > [オブジェクトの変更] の順にクリックします。
- 3 右ペインで、LDAP サーバの識別名を [オブジェクト名] ボックスに入力して、[OK] をクリックします。

名前がわからない場合は、[オブジェクトセレクタ] ボタンをクリックするとオブジェクトのツリーを参照できます。左ペインで、参照を開始するコンテナを入力し、オブジェクトのその他の条件を選択して、[適用] をクリックします。右ペインで、オブジェクトを選択します。オブジェクトが [オブジェクト名] ボックスに表示されたら、[OK] をクリックします。
- 4 [接続] タブを選択して、[サーバ証明書] ボックスに表示されているサーバ証明書の名前をメモします。
- 5 コンテンツパネルで、[オブジェクトの変更] をクリックします。
- 6 右ペインで、サーバ証明書の名前を入力して、[OK] をクリックします。
- 7 [証明書] タブを選択し、[ルート認証局証明書] を選択して、[エクスポート] をクリックします。
- 8 プライベートキーを証明書とともにエクスポートしないことを選択します。
- 9 証明書を DER 形式で保存することを選択します。
- 10 証明書をファイルに保存することを選択します。
- 11 [閉じる] をクリックします。

## eDirectory 証明書のキーストアへのインポート

eDirectory の証明書を DER 形式で保存した後、証明書を iManager のキーストアにインポートする必要があります。

- 1 コマンドウィンドウを開きます。
- 2 JDK\* をインストールした場所の bin ディレクトリに移動します。たとえば、Windows では次のコマンドを入力します。

```
cd j2sdk1.4.1_02\bin
```

- 3 keytool を使用して、証明書をキーストアにインポートします。たとえば、Windows コンピュータから NetWare サーバ上の iManager に証明書をインポートするには、次のコマンドを入力します。

```
keytool -import -file c:\eDirectory.der -alias eDirectoryServer  
-keystore sys:java\lib\security\cacerts
```

コマンド内の初めのパス (c:\eDirectory.cer) では、エクスポートした証明書の場所と名前を指定します。


コマンド内の最後のパス (sys:java\lib\security\cacerts) では、キーストアの場所を指定します。これは、iManager をインストールした場所によって決定されるため、システムによって異なります。このコマンドは、NetWare における iManager のデフォルトの場所を示しています。Windows サーバ上での iManager のデフォルトの場所は c:\Program Files\Novell\jre\lib\security\cacerts です。

- 4 キーストアのパスワードとして「changeit」と入力します。
- 5 [この証明書を信頼する] に対して [はい] を選択します。

## 使用できるボタンのカスタマイズ

iManager Views のアクセスタスクを使用すると、管理者は、iManager 上部のフレームにあるボタンを状況に応じて iManager にアクセスするユーザに対して非表示にすることができます。デフォルトでは、すべてのユーザがすべてのボタンを使用できますが、すべてのユーザに対してアクセスや表示を許可することが好ましくない設定オプションを実行するボタンもあります。iManager Views タスクを使用すると、このようなボタンをユーザに対して非表示にすることができます。設定は、コンテナ (コンテナ内のすべてのユーザに適用されます)、ユーザ、パーソン、または構成員に適用できます。

ユーザが使用できるボタンを制限するには、次の手順に従います。

- 1 iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 コンテンツパネルで、[環境設定情報の表示] > [iManager Views のアクセス] の順にクリックします。
- 3 右ペインで、制限するオブジェクトの識別名を入力して、[OK] をクリックします。

名前がわからない場合は、[オブジェクトセレクタ] ボタンをクリックするとオブジェクトのツリーを参照できます。左ペインで、参照を開始するコンテナを入力し、オブジェクトのその他の条件を選択して、[適用] をクリックします。右ペインで、オブジェクトを選択します。オブジェクトが [オブジェクト名] ボックスに表示されたら、[OK] をクリックします。

- 4 ディレクトリ内で選択したオブジェクトで、ユーザが使用できるボタンを制限するフラグを変更します。
  - ◆ [設定しない] フラグを選択すると、ボタンが表示されるようになるか(デフォルト)、そのオブジェクトより上位にあるコンテナに設定が適用されます。
  - ◆ [表示] フラグを選択すると、そのオブジェクトより上位にあるコンテナでボタンが非表示になっている場合でもボタンが表示されます。
  - ◆ [非表示] フラグを選択すると、そのオブジェクトより上位にあるコンテナの設定に関係なくボタンが非表示になります。
  - ◆ [このオブジェクトの親コンテナを読み込む] を選択すると、そのオブジェクトより上位にあるコンテナのボタン設定がそのオブジェクトに適用されます。

注: ポータル管理者と rbsCollection 所有者に対して [設定] ボタンを非表示にすることはできません。iManager を使用して非表示に設定しても、これらのユーザに対しては [設定] ボタンが表示され、使用できます。

## exteNd Director 設定ウィザードの手動による実行

iManager version 2.x は、exteNd Director™, Standard Edition (DEX) ポータルフレームワーク上で動作します。iManager を正常に機能させるには、iManager を実行する Web サーバ上と eDirectory の両方で DEX を設定する必要があります。

通常、DEX はほとんどのプラットフォームで iManager 2.x のインストール時に自動的に設定されます。ただし、自動設定でエラーが発生した場合やカスタム設定の場合は、手動で設定する必要があります。iManager には exteNd Director 設定ウィザードが用意されており、設定や再設定を簡単に行うことができます。

eDirectory の設定情報は、大部分が CN=PCO,OU=Extend オブジェクトに保存されます。通常、このオブジェクトはサーバのコンテナ内にあります。Web サーバの設定情報は、\$TOMCAT\_HOME\$/webapps/nps/WEB-INF にある PortalServlet.properties ファイルに保存されます。

PCO オブジェクトは、複数の iManager Web サーバ (ポータルヘッド) 間での内容の同期と役割ベースサービスなどの設定の共有を可能にします。1 つ以上の iManager サーバがツリー内にインストールされている場合、exteNd Director 設定ウィザードを実行すると、既存の PCO オブジェクトにインストールするか新しい PCO オブジェクトを作成するか選択するように要求するプロンプトが表示されます。新しい PCO オブジェクトを作成すると、設定した iManager はツリー内にある他の iManager サーバに関連付けることができないことに留意してください。

**警告** : exteNd Director 設定ウィザードを実行すると、データが破壊されることがあります。2 章 13 ページの、「iManager のインストール」または 8 章 57 ページの、「トラブルシューティング」で指示がある場合を除いて、以下のセクションの手順は実行しないでください。

### ウィザードの実行の準備

- 1 PCO のパスワードシードを取得します。

既存の PCO オブジェクトに対する設定を行う場合、その PCO オブジェクトのパスワードシードを知っている必要があります。パスワードシードは、その PCO に対して設定を行った iManager の PortalServlet.properties ファイルの System.Password エントリーにあります。

既存の PCO に対して設定を行った iManager を探すには、PCO オブジェクトの bhLocation 属性を調べます。

- 2 PortalServlet.properties ファイルの名前を変更して、Webサーバのポータルの設定を解除します。例：

```
PortalServlet.properties.OLD
```

exteNd Director 設定ウィザードには設定解除機能がありますが、以前の設定に戻す必要がある場合は、設定解除機能は使用せずに、PortalServlet.properties の名前を変更することをお勧めします。

- 3 Tomcat を再起動します。

## ウィザードの実行

- 1 exteNd Director 設定ウィザードを実行します。iManager の設定に基づいて、次のいずれかを入力します。

```
http://server_ip_address/nps/servlet/configure
```

または

```
https://server_ip_address/nps/servlet/configure
```

- 2 [開始] をクリックします。
- 3 管理アクセス用のアカウント情報とeDirectory LDAPサーバのIPアドレスまたはDNS名を入力します。

iManager をインストールする前に、管理者の権利を持つユーザとして LDAP ディレクトリに対する認証を受けておく必要があります。認証のアカウント情報には LDAP の構文を使用します。パスワードでは大文字と小文字が区別されます。

LDAP の構文では、識別名のみを参照します。たとえば、「cn=admin,ou=mydepartment,o=mycompany」のようになります。

**重要:** SSL を選択した場合は、636 などの SSL ポートを使用する必要があります。ポート番号 389 は、SSL ポートではありません。クリアテキストフォーマットでパスワード情報が送信されないようにするために、SSL の使用をお勧めします。

- 4 リストから platform.xar を選択するか、platform.xar ファイルを参照します。
- 5 使用許諾契約に同意して、[次へ] をクリックします。
- 6 [標準] を選択して、[次へ] をクリックします。

以前にインストールしている場合には、既存の PCO に接続するか新しく作成するか選択できます。

**重要:** 新しい PCO オブジェクトを作成すると、設定した iManager はツリー内にある他の iManager サーバに関連付けることができないことに留意してください。

- 7 [次へ] をクリックします。
- 8 設定が終了したら、Tomcat を再起動します。
- 9 iManager にログインします。iManager の設定に基づいて、次のいずれかを入力します。

```
http://server_ip_address/nps/iManager.html
```

または

```
https://server_ip_address/nps/iManager.html
```

## 負荷分散とフェールオーバーの設定

ツリー内に複数のサーバがある場合、LDAP 接続を処理する方法を設定できます。同じサーバではすべてまたはほとんどの LDAP 接続を確立しないようにするか、失敗しない限り 1 つのサーバですべての LDAP 接続を処理するように、iManager を設定できます。設定方法については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [53 ページの「負荷分散の設定」](#)
- ◆ [53 ページの「フェールオーバーの設定」](#)

**重要:** 負荷分散とフェールオーバーを同時に両方とも有効にすることはできません。

### 負荷分散の設定

負荷分散は、ラウンドロビン方式で実行されます。1 番目のサーバは、1 番目に確立した接続に使用されます。2 番目のサーバは、2 番目の接続に使用されます。3 番目以降のサーバについても、アクティブサーバリスト内にある最後のサーバにアクセスして 1 番目のサーバに戻るまで、同様に処理されます。サーバリストにアクセスしたときにいずれかのサーバが停止している場合、そのサーバはアクティブサーバのリストから削除され、非アクティブサーバキューに入れられます。非アクティブサーバがアクティブになっていないか再チェックするプロセスが定期的に行われます。アクティブになっている場合、そのサーバはアクティブサーバリストの最後に追加されます。非アクティブサーバを再チェックする間隔は、設定可能です。[54 ページの「サーバチェック間隔の設定」](#)を参照してください。

LDAP 接続は、接続を開始したサーバが停止するまでそのサーバに残ります。使用するサーバに関しては、スティッキーな接続と考えることができます。

負荷分散では、3 台までのサーバの追加がサポートされています。つまり、負荷分散には最大で 4 台のサーバを使用できます。負荷分散に使用するサーバを追加するには、次のようにして \$TOMCAT\_HOME/webapps/nps/WEB-INF/にある PortalServlet.properties ファイルにサーバアドレスを追加します。

```
System.DirectoryAddress=137.65.1.2:636  
System.DirectorySSL=true
```

```
System.Directory1Address=137.65.1.7:389  
System.Directory1SSL=false
```

```
System.Directory2Address=137.65.1.14:389  
System.Directory2SSL=false
```

```
System.Directory3Address=137.65.1.21:636  
System.Directory3SSL=true
```

負荷分散では、SSL および非 SSL の LDAP 接続を自由に組み合わせて最大 4 つのサーバアドレスをサポートできます。いずれかのサーバアドレスで DirectorySSL の行を省略すると、false が設定されます。false は、SSL を接続に使用しないことを意味します。

### フェールオーバーの設定

フェールオーバーは、負荷分散とほとんど同じ方法で実現されます。唯一の大きい違いは、フェールオーバーでは、アクティブサーバリストは常にリスト内の 1 番目のサーバにあるということです。何らかの理由で 1 番目のサーバが停止すると、そのサーバはアクティブサーバリストから削除され、リスト内で 1 番目になった新しいサーバがすべての新しい接続に使用されます。

フェールオーバーモードを有効にするには、\$STOMCAT\_HOME/webapps/nps/WEB-INF/にある PortalServlet.properties ファイルに次の行を追加します。

```
System.FailoverOnly=true
```

この行がある場合、PortalServlet.properties ファイル内にあるサーバのリストは負荷分散ではなくフェールオーバーに使用されます。

非アクティブのサーバがアクティブになった場合、そのサーバはアクティブサーバリストの最後に追加されます。このサーバをもう一度プライマリサーバにするには、iManager の設定を更新する必要があります。54 ページの「負荷分散またはフェールオーバーの設定の更新」を参照してください。

## サーバチェック間隔の設定


デフォルトでは、非アクティブサーバリストのサーバは 180 秒ごとにチェックされます。この間隔を変更するには、\$STOMCAT\_HOME/webapps/nps/WEB-INF/にある PortalServlet.properties ファイルに次の行を追加します。

```
System.ServerCheckInterval=180000
```

値は、ミリ秒単位で指定します。

## 負荷分散またはフェールオーバーの設定の更新

負荷分散またはフェールオーバーのサーバリストをリセットするには、次の手順に従います。

- 1 iManager で [設定] ボタン () をクリックします。
- 2 コンテンツパネルで、[iManager の設定] > [ポータル] の順にクリックします。
- 3 右ペインで、[ポータルの更新] をクリックします。


iManager の設定が更新されると、不正なサーバリストが破棄され、アクティブサーバリストが PortalServlet.properties から再度読み込まれます。


## オブジェクトの作成タスクにオブジェクトのクラスを追加する

eDirectory 管理役割には、オブジェクトの作成というタスクが含まれています。このタスクでは、eDirectory の標準的な構文のいずれかを使用するスキーマ内にある任意のクラスのオブジェクトを作成できます。オブジェクト作成タスクを選択すると、使用できるオブジェクトクラスのリストが表示されます。デフォルトでは、よく使用されるオブジェクトクラスのみが表示されます。オブジェクトクラスをリストに追加すると、ユーザは対応するオブジェクトを作成できるようになります。

**重要:** iManager Development 役割は、役割ベースサービスを設定しないと使用できません。

[使用可能なオブジェクトクラス] リストに項目を追加するには、次の手順に従います。

- 1 [ディベロッパ] ボタン () をクリックします。
- 2 [iManager Development] > [作成リストへのオブジェクトクラスの追加] の順にクリックします。
- 3 使用可能なオブジェクトクラスのリストからオブジェクトクラスを選択して、[次へ] をクリックします。

- 4 [概要] ページで、<class-name> エントリの値が「com.novell.emframe.fw.GenericCreator」になっていることを確認してから [完了] をクリックします。
- 5 他のオブジェクトクラスを追加するには、[タスクの繰り返し] をクリックします。そうでない場合は、[OK] をクリックします。
- 6 オブジェクトの作成タスクに戻るには、[役割およびタスク] ボタン () をクリックしてから、[eDirectory 管理] > [オブジェクトの作成] の順にクリックします。
- 7 追加したオブジェクトクラスが、使用可能なオブジェクトクラスのリストにあることを確認します。

**ヒント** : オブジェクトの作成タスクを使用しないで別のタスクでオブジェクトを作成する場合には、Plug-In Studio を使用してそのクラスのタスクを作成します。





# 8

## トラブルシューティング

このセクションでは、Novell<sup>®</sup>でiManagerをテストしたときに発見されたトラブルシューティングのヒントを示します。これらのヒントは、以下のトピックでアルファベット順に説明します。

- ◆ 57 ページの「空白のページ」
- ◆ 58 ページの「インストールと設定のためのデバッグ設定」
- ◆ 58 ページの「ダイナミックグループのLDAPエラー」
- ◆ 59 ページの「eDirectory 管理タスクエラー」
- ◆ 59 ページの「HTTP 404 エラー」
- ◆ 59 ページの「HTTP 500 エラー」
- ◆ 60 ページの「属性、オブジェクト、または値がないというエラー」
- ◆ 60 ページの「NPS のコンテキストを認識できないというエラー」
- ◆ 60 ページの「次のサブレットの起動中に問題が発生しました」エラー」
- ◆ 61 ページの「「ユニバーサルパスワードステータスを判別できません」エラー」

### 空白のページ

空白のページが表示される原因には、次のようなものがあります。

- ◆ NetWare<sup>®</sup> 6 を Novonyx サーバで実行している。
- ◆ Apache を非標準ポートにスタンドアロン製品としてインストールした。
- ◆ Custom\_Backend\_Renderer\_Portal\_Location ディレクティブが PortalServlet.Properties で設定されていない。

これらの問題を解決するには、次の手順に従います。

- 1 Tomcat を停止します。
- 2 \$STOMCAT\_HOME/webapps/nps/WEB-INF にある PortalServlet.properties ファイルを編集します。
  - ◆ Apache をインストールしていない場合は、指定されたポートを使用するように次の行を修正します。「<ip\_address>」の部分は、サーバの IP アドレスに置き換えてください。

```
Custom_Backend_Renderer_Portal_Location=http\://<ip_address>:8080/  
nps
```

- ◆ Apache をインストールしていて非標準ポート(81など)を使用している場合は、設定したポートを反映するために次の行を修正します。「<ip\_address>」の部分は、サーバの IP アドレスに置き換えてください。

```
Custom_Backend_Renderer_Portal_Location=http\://<ip_address>:81/nps
```

- ◆ Custom\_Backend\_Renderer\_Portal\_Locationディレクティブが設定されていない場合は、次の行を追加して、正しいポートを指定します。「<ip\_address>」の部分は、サーバの IP アドレスに置き換えてください。

```
Custom_Backend_Renderer_Portal_Location=http\://<ip_address>:80/nps
```

**3** Tomcat を再起動します。

**4** iManager にログインします。

空白ページの問題が解決しない場合は、iManager ポータルを手動で再設定しなければならない可能性があります。詳細については、[51 ページの「exteNd Director 設定ウィザードの手動による実行」](#)を参照してください。

## インストールと設定のためのデバッグ設定

インストールに失敗する場合は、デバッグツールを実行して問題の原因の特定に役立てることができます。

Windows、HP-UX、および Solaris のインストールでは、デバッグモードでインストールプログラムを実行できます。

- ◆ Solaris と HP-UX では、端末セッションで「LAX\_DEBUG=true」をエクスポートしてから iManager InstallAnywhere プログラムを起動します。
- ◆ Windows では、<Ctrl>キーを押しながら iManager InstallAnywhere を起動します。<Ctrl>キーは、デバッグ画面が表示されるまで押し続けてください。


Linux 用のインストールプログラムにはデバッグモードがありませんが、情報提供とトラブルシューティングのために imanager\_install.log と iManagerConfigWizard.log がインストール時に作成されます。これらのファイルは、/var/log にあります。imanager\_install.log には、インストール全般における情報 / エラーメッセージが記録されます。iManagerconfigWizard.log には、iManager を設定したときの情報 / エラーメッセージが記録されます。

iManager サブレットは、どのプラットフォームでもデバッグモードで実行できます。デバッグモードで実行するには、iManager の URL の終りに「?DEBUG=LOG\_LOW」を追加します。例：

```
https://<ip_address>/nps/servlet/configure?DEBUG=LOG_LOW
```

「<ip\_address>」の部分は、サーバの IP アドレスに置き換えてください。このコマンドを指定すると、Tomcat のログファイルにデバッグ情報が記録されます。

## ダイナミックグループの LDAP エラー

[別のツリーにログイン] ボタン  を使用してログインした後でダイナミックグループを変更すると、次のメッセージが表示される場合があります。

LDAP エラー  
有効な LDAP コンテキストを取得できません。

安全な SSL LDAP コンテキストの作成に失敗しました：  
simple bind failed (単純バインドに失敗しました) : 151.155.159.49:636

ダイナミックグループ役割を正しく機能させるには、保護された LDAP アクセスが必要です。保護されたアクセスを設定する方法については、[49 ページの「eDirectory への SSL/TLS 接続のための iManager の設定」](#)を参照してください。

## eDirectory 管理タスクエラー

eDirectory 管理タスクを実行するには、iManager を使用して管理対象のツリーに対して役割ベースサービスを設定する必要があります。RBS の設定については、5 章 35 ページの、「[役割ベースサービスの設定](#)」を参照してください。

詳細については、Novell eDirectory™ のマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/japanese/edir871/index.html?page=/documentation/japanese/edir871/edir871/data/agabn4a.html>) を参照してください。

## HTTP 404 エラー

初めて iManager にアクセスしようとしたときにこのエラーが発生する場合は、iManager の NPS の設定を解除してから再設定する必要があります。

- 1 Web ブラウザを使用して exteNd Director™ 設定ウィザードに接続します。次の URL を入力します。

`https://<ip_address>/nps/servlet/configure`

「<ip\_address>」の部分は、iManager をインストールしたサーバの IP アドレスに置き換えてください。

- 2 初期画面で [現在の設定] ボタンをクリックします。
- 3 [設定解除] ボタンをクリックします。

iManager をインストールしたユーザ (ポータル管理者) のアカウント情報が要求されます。表示される指示に従ってください。

- 4 exteNd Director 設定ウィザードを実行して、NPS を手動で設定します。操作手順については、51 ページの「[exteNd Director 設定ウィザードの手動による実行](#)」を参照してください。

## HTTP 500 エラー

内部サーバエラーまたはサーブレットコンテナエラー (使用不可またはアップグレード中) が発生する場合は、Tomcat に問題があります。

- ◆ 再起動後に Tomcat が完全に初期化されていない。
- ◆ Tomcat の起動に失敗した。

数分待つてから、もう一度 iManager にアクセスします。同じエラーが発生する場合は、Tomcat の状態を確認する必要があります。それでも解決しない場合は、Apache の状態を確認します。

## Tomcat の状態のチェック

- 1 Tomcat を再起動します。
- 2 Tomcat のログファイルをチェックして、エラーがないか調べます。

ログファイルは、UNIX/Linux および Windows プラットフォームの \$TOMCAT\_HOME\$/logs ディレクトリにあります。Unix/Linux では、ログファイルの名前は catalina.out または localhost\_log.<date>.txt です。Windows では、stderr と stdout です。

NetWare では、エラーはログ記録画面に送られます。

## Apache の状態のチェック

- 1 Apache を再起動します。
- 2 Apache のログファイルをチェックして、エラーがないか調べます。  
ログファイルは \$APACHE\_HOME\$/logs ディレクトリにあります。

## 属性、オブジェクト、または値がないというエラー

大規模なインストールを行って同期遅延が発生する場合、強制的に iManager をマスタレプリカと通信させることができます。このようにすると、追加または変更されたばかりの属性、オブジェクト、値にアクセスできるようになります。これは iManager の通常使用ではお勧めできませんが、同期遅延が発生している場合に役立つ可能性があります。

この設定を有効にするには、iManager にログインするときに URL の終りに「&forceMaster=true」を追加します。例：

`http://<IP Address>/nps/imanager.html&forceMaster=true`

## NPS のコンテキストを認識できないというエラー

NetWare 6.0 に Tomcat 4 をインストールせずに iManager をインストールした場合、インストールが終了した後で Tomcat を手動で再起動する必要があります。Tomcat を再起動せずに iManager にアクセスしようとすると、NPS のコンテキストを認識できないというエラーが発生します。

この問題を解決するには、Tomcat を再起動します。

注：iManager 2.0.2 をインストールするときに Tomcat 4 と iManager の両方を選択した場合、この問題は発生しません。Tomcat がすでにインストールされている場合のみ発生します。

## 「次のサブレットの起動中に問題が発生しました」エラー

「次のサブレットの起動中に問題が発生しました」で始まるエラーのほとんどは、\$TOMCAT\_HOME/webapps/nps/WEB-INF の PortalServlet.properties ファイルに情報が欠けていることを示しています。このエラーメッセージには、原因と解決策に関するヒントも含まれています。

すでに iManager がインストールされている eDirectory ツリーに 2 番目の iManager ポータルをインストールした場合は、別のサーバから PortalServlet.properties ファイルをコピーすると問題が解決します。Custom\_Backend\_Renderer\_Portal\_Location ディレクティブなどで、新しいサーバに合わせて IP アドレスの設定を変更してください。

推奨された解決策が失敗する場合は、exteNd Director 設定ウィザードを再実行する必要があります。操作手順については、51 ページの「[exteNd Director 設定ウィザードの手動による実行](#)」を参照してください。

## 「ユニバーサルパスワードステータスを判別できません」エラー

UNIX サーバ用 eDirectory で LDAP 通信に SSL を使用するよう設定した場合、iManager でシンプルパスワードを設定するオプションを選択すると次のエラーが表示される場合があります。

“ユニバーサルパスワードステータスを判別できません”

このエラーを解決するには、UNIX サーバ用 eDirectory で nmasinst ユーティリティを実行します。nmasinst ユーティリティを使用すると、UNIX マシンから eDirectory にログインメソッドをインストールできます。このユーティリティは、ユニバーサルパスワード機能を使用するためにも必要です。nmasinst ユーティリティは、\usr\bin\nmasinst ディレクトリにあります。

詳細については、『*Universal Password Deployment Guide* ([http://www.novell.com/documentation/japanese/nw65/universal\\_password/data/front.html](http://www.novell.com/documentation/japanese/nw65/universal_password/data/front.html))』を参照してください。



# A

## PortalServlet.properties ファイルの設定

Novell® iManager では、さまざまな設定を行うことができます。これらの設定は、iManager と Web サーバの動作に影響を与えます。PortalServlet.properties は、iManager 2.0.x の設定ファイルです。このファイルは、Tomcat サブレットエンジンの「...\webapps\nps\WEB-INF」ディレクトリにあります。

これらの設定の多くは、iManager 設定役割で iManager 2.0.x から行うこともできます。ただし、Tomcat サブレットエンジンを再起動すると、iManager 2.0.x で iManager 設定役割を使用して行った設定よりも PortalServlet.properties ファイルのディレクティブが優先されることに注意してください。

次に、iManager 2.0.x の設定に使用できるディレクティブの説明と例を示します。

### デフォルトツリーの設定

#### System.AllowiManagerDefaultLogin

デフォルトツリー機能をオンまたはオフにします。デフォルトでは、この機能はオフになっています。

**true** - デフォルトツリー機能をオンにします。

**false** - デフォルトツリー機能をオフにします (デフォルト)。

例:

```
System.AllowiManagerDefaultLogin=true
```

### LDAP サーバの設定

#### System.DirectoryAddress

LDAP サーバの IP アドレスとポートを指定します。LDAP サーバには、ポータル設定オブジェクトが置かれています。

例:

```
System.DirectoryAddress=127.1.1.1:389
```

## System.DirectorySSL

iManager の LDAP への保護された接続を指定します。

**注:** true に設定した場合、System.DirectoryAddress ではデフォルトの LDAP SSL ポートである 636 が使用されます。

**true** - LDAP サーバに対して SSL 接続を行います (デフォルト)。

**false** - LDAP サーバに対してクリアテキスト接続を行います。

例:

```
System.DirectorySSL=false
```

## System.Directory#Address

セカンダリ LDAP サーバの IP アドレスとポートを指定します。iManager では、セカンダリアドレスを 3 つまで指定できます。# は、数字の 1 ~ 3 に置き換えてください。

例:

```
System.Directory1Address=127.1.1.1
```

```
System.Directory2Address=127.1.1.2
```

```
System.Directory3Address=127.1.1.3
```

**注:** ディレクトリアドレスはすべて、System.DirectoryAddress と同じツリー内にあるものを指定する必要があります。

## System.Directory#SSL

iManager のセカンダリ LDAP サーバへの保護された接続を指定します。# は、数字の 1 ~ 3 に置き換えてください。

**注:** true に設定した場合、System.Directory#Address で LDAP SSL ポートを指定する必要があります (デフォルトの LDAP SSL ポートは 636 です)。

**true** - LDAP サーバに対して SSL 接続を行います。

**false** - LDAP サーバに対してクリアテキスト接続を行います (デフォルト)。

例:

```
System.Directory1SSL=true
```

```
System.Directory2SSL=true
```

```
System.Directory3SSL=false
```

## System.FailoverOnly

LDAP ディレクトリアクセスに対してフェールオーバーモードを有効にします。無効にすると、負荷分散が使用されます。この設定を正しく機能させるには、System.Directory#Address を指定する必要があります。

**true** - LDAP サーバ間でフェールオーバー。

**false** - LDAP サーバ間で負荷分散 (デフォルト)。

例:

```
System.FailoverOnly=true
```



## ポータル設定オブジェクトの設定

### System.PortalConfigurationObjectDN

ポータル設定オブジェクトの完全な LDAP ディレクトリ名です。

例：

```
System.PortalConfigurationObjectDN=cn=portal,o=nps
```

### System.GUID

ポータル設定オブジェクトの GUID (Globally Unique Identifier) です。

例：

```
System.GUID={E5BAE001-0000-00F1-1D4E-C6AB89419537}
```

### System.Password

ポータル設定オブジェクトのパスワードシードです。

例：

```
System.Password=MyPassword
```

### Custom\_Backend\_Renderer\_Portal\_Location

iManager がバックエンドレンダリングのスタイルシートを取得する場所を指定します。この設定の詳細については、Novell サポート Web サイト (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10070553.htm>) の TID #10070553 を参照してください。

注：この設定は、Novell iChain™ または他のリバースプロキシで iManager を実行している場合に必要と考えられます。

例：

```
Custom_Backend_Renderer_Portal_Location=http://127.1.1.1/nps
```

## セッションマネージャの設定

### System.SessionManager.Render

### System.SessionManager.RenderOverride

これらの設定は、iManager サーバで強制的にレンダリングを行うかどうかを指定するために使用されます。

**true** - 情報は常に html 形式でブラウザに戻されます。

**false** - 情報は html 形式または xml/xsl 形式に戻すことができます (デフォルト)。

注：デフォルトでは、これらの設定はコメントアウトされています。

例：

```
!System.SessionManager.Render=true
```

```
!System.SessionManager.RenderOverride=true
```

# DontCacheStylesheets のレンダリングの設定

## System.Render.DontCacheStylesheets

この設定は開発用に使用されます。

**true** - スタイルシートは、すべての要求でファイルシステムから読み込まれます。パフォーマンスに影響を与えるため、この設定は開発目的にのみ使用してください。

**false** - スタイルシートは、iManager のキャッシュから読み込まれます (デフォルト)。

例:

```
System.render.DontCacheStylesheets=true
```

## ログの設定

### ログを有効にする

iManager によりデバッグ、エラー、および情報のログが保存されます。

**true** - 情報を記録します (デフォルト)。

**false** - 情報を記録しません。

例:

```
System.Logging=true
```

### ログの優先順位

出力に書き込む情報のタイプと量を決定します。

**注:** このフラグは、System.Logging を true に設定した場合のみ有効です。

**high** - 少しの情報だけが記録されます (デフォルト)。

**medium** - 中程度の量の情報が記録されます。

**low** - すべての情報が記録されます。

例:

```
System.Logging.Priority=high
```

### ログ出力

ログ情報の出力先を決定します。

**注:** このフラグは、System.Logging を true に設定した場合のみ有効です。

**err** - 情報はシステムの標準エラーに送られます (デフォルト)。

**out** - 情報はシステムの標準出力に送られます。

**file** - 情報は、デフォルトで `\webapps\nps\WEB-INF\Debug.xml` というファイルに書き込まれます。

例 :

```
System.Logging.Output=err
```

注 : ログ出力は、複数の場所に出力するように設定できます。例 :System.Logging.Output=err,file,out

## ログ出力ファイル

デフォルト以外のログ出力ファイルを指定できるようにします。

例 :

```
System.Logging.File=myDebugFile.xml
```

注 : このフラグは、System.Logging.Output を「file」に設定した場合のみ有効です。

## SSL の設定

### 保護されていない接続に関する警告

保護されていない接続 (https ではなく http) で iManager にアクセスすると警告メッセージを出力します。

**true** - 保護されていない接続に対して警告を出力します (デフォルト)。

**false** - 保護されていない接続に対して警告を出力しません。

例 :

```
Security.Warn.nonSecure=true
```

### eDirectory との保護された通信が必要

JNDI/LDAP コンテキストを確立するときに SSL を使用するよう iManager に対して指定します。

注 : この設定は、ガジェットではなく iManager のタスクで行う LDAP 接続のみに適用されます。

通常、eDirectory と Web サーバの間で保護された通信を可能にするには、Web サーバと eDirectory でさらに設定を行う必要があります。

この設定が適用されるのは、セカンダリツリーに対して認証されるときだけです。

ポータルを設定したツリーに対する SSL 接続を指定するには、System.DirectorySSL ディレクティブを使用します。

**true** - 認証ブローカから JNDI/LDAP コンテキストを受信するときに、保護された接続を使用します。

**false** - 接続にクリアテキストを使用します (デフォルト)。

例 :

```
Provider.eMFrame.ssl=false
```

## RBS ( 役割ベースサービス )

### すべての役割をコレクション所有者に表示する

役割およびタスクビュー内で管理者が所有するコレクション内の役割をすべて表示するかどうか指定します。

**true** - rbsCollection の指定された所有者である認証済みのユーザオブジェクトに対する役割およびタスクビュー内ですべての役割を表示します ( デフォルト )。

**false** - 役割およびタスクビュー内で割り当てられている役割のみを表示します。

例 :

```
Provider.eMFrame.ShowRolesInOwnedCollections.enable=true
```

### 自己プロビジョニングを許可する

iManager で [this] キーワードを有効にするかどうか指定します。これによって、ユーザの権利をそのユーザの eDirectory オブジェクトに割り当てることができます。

**重要 :** ツリー内にあるすべてのサーバで eDirectory バージョン 8.62 以降を実行している必要があります。

例 :

```
Provider.eMFrame.This.enable=false
```

### RBS 検出ドメイン

コンテナに割り当てられている役割を探すためにツリーをどのくらい移動するか指定します。

有効な値は、*parent*、*partition*、および *root* です。値を *parent* にすると、ログインしているユーザの直接のペアレントコンテナに割り当てられている役割のみが検出されます。値を *partition* にすると、ユーザのペアレントから初めのペアレントパーティションまでのコンテナに割り当てられている役割が検出されます。値を *root* にすると、ユーザからツリーのルートまでにある任意のコンテナに割り当てられている役割が検出されます。

**parent** - ログインしているユーザのペアレントコンテナとすべてのサブディレクトリから検索します ( デフォルト )。

**partition** - ログインしているユーザのペアレントパーティションとすべてのサブディレクトリから検索します。

**root** - ツリーのルートとすべてのサブディレクトリから検索します。

例 :

```
Provider.eMFrame.Role.discoveryDomain=parent
```

## ダイナミックグループの役割メンバーを許可する

ダイナミックグループを RBS 役割のメンバーとして割り当てることができるかどうかを指定します。

**true** - ダイナミックグループを役割のメンバーとして割り当てることができます。

**false** - ダイナミックグループを役割のメンバーとして割り当てることができません (デフォルト)。

例:

```
Provider.eMFrame.DynamicGroup.enable=true
```

## ダイナミックグループ RBS 検出ドメイン

コンテナの役割に割り当てられているダイナミックグループを探すためにツリーをどのくらい移動するか指定します。

有効な値は、*parent*、*partition*、および *root* です。値を *parent* にすると、ログインしているユーザの直接のペアレントコンテナ内にあるダイナミックグループが検出されます。値を *partition* にすると、ユーザのペアレントから初めのペアレントパーティションまでのコンテナ内にあるダイナミックグループが検出されます。値を *root* にすると、ユーザからツリーのルートまでにある任意のコンテナに割り当てられている役割が検出されます。

**注:** このフラグは、`Provider.eMFrame.DynamicGroup.enable` を `true` に設定した場合のみ有効です。

**parent** - ログインしているユーザのペアレントコンテナとすべてのサブディレクトリから検索します (デフォルト)。

**partition** - ログインしているユーザのペアレントパーティションとすべてのサブディレクトリから検索します。

**root** - ツリーのルートとすべてのサブディレクトリから検索します。

例:

```
Provider.eMFrame.DynamicGroup.discoveryDomain=parent
```

## ダイナミックグループの検索タイプ

RBS 役割のメンバーとして許可するオブジェクトのタイプを指定します。

このフラグは、`Provider.eMFrame.DynamicGroup.enable` を `true` に設定した場合のみ有効です。

**DynamicGroupObjectsOnly** - ダイナミックグループオブジェクトのみを検索します (デフォルト)。

**DynamicGroupObjects&AuxClasses** - ダイナミックグループオブジェクトだけでなく、ダイナミックグループ補助クラスを持つオブジェクトも検索します。

例:

```
Provider.eMFrame.DynamicGroup.Searchtype=DynamicGroupObjectsOnly
```

## System.UserClass

デフォルトでは、コンテキストレスログインで検索されるクラスは「inetOrgPerson」だけです(これは eDirectory 内のユーザオブジェクトです)。inetOrgPerson をサブクラス化すると、コンテキストレスログインで動作するようになります。ただし、他のクラスを使用する場合は、この設定を指定して、「inetOrgPerson」の検索を無効にする必要があります。

例:

```
System.UserClass=person
```

注: この例のように設定すると、inetOrgPerson オブジェクトではなく「person」オブジェクトがコンテキストレスログインで検索されます。

## eGuide の管理

### eGuide サーバの場所

eGuide の URL を指定します。これは、ヘッダの eGuide 起動ボタンと、eGuide 役割およびタスク管理タスクで使用されます。完全な URL (<https://my.dns.name/eGuide/servlet/eGuide> など) または EMFRAME\_SERVER というキーワードを使用する必要があります。EMFRAME\_SERVER を使用すると、eMFrame があるサーバ上で eGuide が検索されます。

例:

```
Provider.eMFrame.eGuide.location=EMFRAME_SERVER
```

## PortalServlet.properties ファイルの例

このセクションでは、iManager 2.0.x に含まれている PortalServlet.properties ファイルの例を示します。

```
#=====
# LDAP Server Settings:
#=====
#-----
# System.DirectoryAddress:
# Specifies the IP address and port of the LDAP server.  The LDAP server is where
# the portal configuration object is located.
#-----
System.DirectoryAddress=137.65.150.253:389
#-----
# System.DirectorySSL:
# Specifies that iManager should attempt to connect to LDAP securely.
# NOTE:If this setting is true, the System.DirectoryAddress will need to use
# the LDAP SSL port (Default LDAP SSL port is 636).
# true - SSL connection to LDAP server.
```

```

# false - Clear text connection to LDAP server (default).
#-----
System.DirectorySSL=false
#-----
# System.Directory#Address:
# Specifies the IP address and port of the secondary LDAP server(s). iManager is
# designed to have up to three secondary addresses specified. Replace # with
# number 1 - 3.
# EXAMPLE:
#System.Directory1Address=137.65.1.1
#System.Directory2Address=137.65.1.2
#System.Directory3Address=137.65.1.3
# NOTE:All Directory Addresses specified must be in the same tree as the
# System.DirectoryAddress.
#-----
#-----
# System.Directory#SSL:
# Specifies if iManager attempts to connect to the secondary LDAP server(s)
# securely. Replace # with number 1 - 3.
# NOTE:If this setting is true, the System.Directory#Address will
# need to use the LDAP SSL port (Default LDAP SSL port is 636).
# true - SSL connection to LDAP server.
# false - Clear text connection to LDAP server (default).
# EXAMPLE:
#System.Directory1SSL=true
#System.Directory2SSL=true
#System.Directory3SSL=false
#-----
#-----
# System.FailoverOnly:
# Enable fail over mode for LDAP directory access. If disabled, load balancing
# is used. This setting requires System.Directory#Address to be specified in order to work
# correctly.
# true - Failover between LDAP servers.
# false - Load balance between LDAP servers (default).
# EXAMPLE:
#System.FailoverOnly=true

```

```

#-----
#=====
# Portal Configuration Object Settings:
#=====
#-----
# System.PortalConfigurationObjectDN:
# Full LDAP directory name of the portal configuration object.
#-----
System.PortalConfigurationObjectDN=cn=portal,o=nps
#-----
# System.GUID:
# Globally Unique Identifier (GUID) for the portal configuration object.
#-----
System.GUID={E5BAE001-0000-00F1-1D4E-C6AB89419537}
#-----
# System.Password:
# Password seed of the portal configuration object.
#-----
System.Password=DiscoNNected
#-----
# Custom_Backend_Renderer_Portal_Location:
# Specifies where iManager will retrieve the style sheets for backend rendering.
# Please review http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10070553.htm
# for additional information.
# EXAMPLE:
#Custom_Backend_Renderer_Portal_Location=http://137.65.147.1/nps
#
# NOTE:This setting should be considered as required when running iManager behind Novell
#       iChain or any other reverse proxy.
#-----
#=====
# Session Manager Settings:
#=====
#-----
# System.SessionManager.Render:
# System.SessionManager.RenderOverride:
# These settings are used to force rendering on the iManager server.

```



```

# true - Information is always returned as html to the browser.
# false - Information can be returned as html or xml/xsl (default).
# NOTE:These settings are commented out by default.
#-----
!System.SessionManager.Render=true
!System.SessionManager.RenderOverride=true
#=====
# Render DontCacheStylesheets Settings:
#=====
#-----
# System.Render.DontCacheStylesheets:
# This setting is used for development purposes.
# true - Stylesheets are read from the file system on every request (This
#       setting should only be used in development because of the
#       performance hit).
# false - Stylesheets are read from iManagers cache (Default).
#-----
System.render.DontCacheStylesheets=true
#=====
# Log Settings:
#=====
#-----
# Logging Enabled:
# Enables iManager to keep a log of debug, error, and informational output.
# true - Information is logged (default).
# false - Information is not logged.
#-----
System.Logging=true
#-----
# Logging Priority:
# This determines the type and amount of information written to the output.
# NOTE:This flag is only used if System.Logging is set to true.
# high - Very little information is logged to the output (default).
# medium - A moderate amount of information logged to the output.
# low - All information is written to the output.
#-----
System.Logging.Priority=high

```

```

#-----
# Logging Output:
# This determines the location where logger information is output to.
# NOTE:This flag is only used if System.Logging is set to true.
# NOTE:Logger output may be configured to be sent to multiple locations.
#     Example:System.Logging.Output=err,file,out
#     err - Information is sent to Standard Error for the system (default).
#     out - Information is sent to Standard Output for the system.
#     file - Information is written to the \webapps\nps\WEB-INF\Debug.xml file
#           by default.
#-----
System.Logging.Output=err
#-----
# Logging Output File:
# This allows the user to specify a output log file other than the default.
# NOTE:This flag is only used if System.Logging.Output is set to "file".
#-----
System.Logging.File=myDebugFile.xml
#=====
# SSL Settings:
#=====
#-----
# Warning on Non-Secure Connection:
# Show a warning message when accessing iManager with a non-secure connection
# (using http instead of https)
#     true  - Show a warning for non-secure connections (default).
#     false - Do not show a warning for non-secure connections.
#-----
Security.Warn.nonSecure=true
#-----
# Require Secure eDirectory Communication:
# Specifies to iManager that it should use SSL when establishing JNDI/LDAP
# Contexts.
# NOTE:This ONLY applies to the LDAP connections that are
#     made by iManager tasks, not gadgets.
# NOTE:Additional configuration of the web server and eDirectory is
#     typically required in order to allow secure communication between

```

```

# eDirectory and the web server.
# NOTE:This setting only applies when authenticated to a secondary tree.
# Use the System.DirectorySSL directive for specifying a SSL connection
# to the tree where Portal has been configured.
# true - When receiving a JNDI/LDAP context from the authentication broker,
# the connection will be secure.
# false - The connection will be clear text (default).
#-----
Provider.eMFrame.ssl=false
#=====
# Role Based Services:
#=====
#-----
# Show All Roles to Collection Owners:
# Specify whether or not to show all of the roles in the administrator's owned
# collections in their roles and tasks view.
# true - Show all roles in the Roles and Tasks view to authenticated
# Users who are designated owners of an rbsCollection (default).
# false - Show only assigned roles in the roles and tasks view.
#-----
Provider.eMFrame.ShowRolesInOwnedCollections.enable=true
#-----
# Enable Self Provisioning:
# Specifies whether to enable [this] in iManager. This allows the assignment
# of rights for a user specifically to its own eDirectory object.
# Note that all servers in the tree must be version 8.62 or higher.
#-----
Provider.eMFrame.This.enable=false
#-----
# RBS Discovery Domain:
# Specifies how far to traverse up the tree looking for roles that are assigned
# to a container. Valid values are parent, partition and root. A value of
# parent will discover roles only assigned to the immediate parent container of
# the user logging in. A value of partition will discover roles assigned to
# the containers from the parent of the user to the first parent partition.
# A value of root will discover roles assigned to any container from the user
# to the root of the tree.

```

```

# parent - Search from the parent container of the logged in user and all
#         subdirectories(default).
# partition - Search from the parent partition of the logged in user and all
#             subdirectories.
# root - Search from the root of the tree and all subdirectories.
#-----
Provider.eMFrame.Role.discoveryDomain=parent
#-----
# Allow Dynamic Group Role Members:
# Specify whether or not a dynamic group can be assigned as the member of a
# RBS role.
# false - Dynamic groups cannot be assigned as a member of a role (default).
# true - Dynamic groups can be assigned as a member of a role.
#-----
Provider.eMFrame.DynamicGroup.enable=true
#-----
# Dynamic Group RBS Discovery Domain:
# Specifies how far to traverse up the tree looking for Dynamic Groups that
# are assigned to roles for a container. Valid values are parent, partition
# and root. A value of parent will discover Dynamic Groups in the immediate
# parent container of the user logging in. A value of partition will discover
# Dynamic Groups in the containers from the parent of the user to the first
# parent partition. A value of root will discover roles assigned to any
# container from the user to the root of the tree.
# Note that this flag is only used if Provider.eMFrame.DynamicGroup.enable is
# set to true.
# parent - Search from the parent container of the logged in user and all
#         subdirectories(default).
# partition - Search from the parent partition of the logged in user and all
#             subdirectories.
# root - Search from the root of the tree and all subdirectories.
#-----
Provider.eMFrame.DynamicGroup.discoveryDomain=parent
#-----
# Dynamic Group Search Types:
# Specifies the types of objects to allow as members of RBS roles.
# Note that this flag is only used if Provider.eMFrame.DynamicGroup.enable is

```

```

# set to true.
#   DynamicGroupObjectsOnly - Search for dynamic group objects only (default).
#   DynamicGroupObjects&AuxClasses - Search for dynamic group objects and any
#     object that has the dynamic group auxiliary class
#-----
Provider.eMFrame.DynamicGroup.Searchtype=DynamicGroupObjectsOnly
#-----
# System.UserClass:
# By default, the only class searched for contextless login is "inetOrgPerson" (this is
# the User object in eDirectory).  If you subclass inetOrgPerson it will work in
# contextless login.
# However, if you want to use something else, you must specify this setting to over-ride
# that behavior.
# EXAMPLE:
#System.UserClass=person
#
# NOTE:The example setting would cause contextless login to search for "person" objects
#     instead of inetOrgPerson objects
#-----
#=====
# eGuide Administration:
#=====
#-----
# eGuide Server Location:
# Specifies the url to eGuide.  This is used in the eGuide launch button on
# the header and in the eGuide role and task management tasks.  This must be
# a full url, (ie. https://my.dns.name/eGuide/servlet/eGuide), or the keyword
# EMFRAME_SERVER.  Using EMFRAME_SERVER causes eMFrame to look for eGuide on
# the same server that eMFrame is located on.
#-----
Provider.eMFrame.eGuide.location=EMFRAME_SERVER

```

